

平成二十八年 度

證大寺職員報恩講

# 證大寺中興四〇〇年記念

平成二十八年 度 證大寺職員報恩講

## 和合衆の願い

法話 三明 智彰 師

宗教法人 證 大 寺

〒134-0003 東京都江戸川区春江町4-23-1

TEL03-3653-4499 (代) FAX03-3653-2250

<http://www.shoudaiji.or.jp>



【證大寺 三つの願い】

- 一、弥陀の本願に基づき證大寺は、「生涯聞法」を実践しています。
- 一、弥陀の本願に基づき證大寺は、参詣者の皆さまの願いを聞き取ります。
- 一、弥陀の本願に基づき證大寺は、どなたでも集える共通の広場をつくります。



【證大寺の事業目的】

感謝と尊敬にあふれた自分に目覚める

【證大寺の使命】

- 一、生涯聞法を通して、  
葬儀・法事・お参りの意義を確かめ、お念仏のある生活を回復します。
- 一、生涯聞法を通して、  
地縁血縁を超えた、どなたでも集える共通の広場をつくります。



平成28年度 第2回證大寺職員報恩講  
パートナー一同（於 江戸川本堂）

三歸依文

人身受け難し、いまずでに受く。仏法聞き難し、いまずでに聞く。

この身今生において度せずんば、さらにいづれの生においてか

この身を度せん。大衆もろともに、至心に三宝に歸依し奉るべし。

自ら仏に歸依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、

大道を体解して、無上意を發さん。

自ら法に歸依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、

深く経藏に入りて、智慧海のごとくならん。

自ら僧に歸依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、

大衆を統理して、一切無碍ならん。

無上甚深微妙の法は、百千万劫にも遭遇うこと難し。我いま見聞し

受持することを得たり。願わくは如来の眞實義を解したてまつらん。

# 目次

巻頭のことば	1
当日の日程	3
開講挨拶	4
住職挨拶	11
職員感話Ⅰ	13
法話Ⅰ	23
職員感話Ⅱ	35
法話Ⅱ	45
職員感話Ⅲ	59
法話Ⅲ	69
質疑応答	85
大坊守挨拶	103
住職挨拶	106
法話資料	109
おわりに	117
後記	



## 巻頭のことば

この冊子は證大寺中興四〇〇年を記念して開催された、證大寺 職員報恩講の記録である。

證大寺ではこれまでも本坊では五日間、各支坊において報恩講を開催してきた。しかし證大寺に勤める職員が、まさしく自分のための報恩講を開催することを願いとして、三明智彰先生を講師として、昨年につづき第二回目となる「職員報恩講」を開催することができた。法話を聴聞し、ご本尊に向き合い、自分が生まれたことの意味や意義を確かめる機会を得ることは、お寺に勤める仏縁を得たものにお寺が与えることができる最大のことである。しかしそれとて、お寺に勤める我々が向き合い、受け取るということがなければ、「宝の山にいりて手をむなしくしてかえらんにとたる」(『御文』 聖典八一六頁) ことになる。

この冊子を通して、我らが一職員ではなく、一門徒として、釈尊や親鸞聖人、證大寺を開き相續してくれた親先祖から託され、大切な願いをかけられていることを確かめたい。そして、日々の私達の仕事が、職場が、人生完成に向けた仏道修行の現場であることを確かめていきたい。

最後に、證大寺は一六一六年（元和二年）に浄土真宗の寺院として中興され、本年二〇一六年は、證大寺が中興されて四〇〇年目に当たる節目である。また今年の中興の祖である学海上人の願いを確かめ、また首都圏に開教し寺基を九州よりこの地に移した先代住職、坊守の願いを受け、二〇一六年十月十一日に東銀座の歌舞伎座の隣接地に、一般社団法人「仏教人生大学」を開校した。中興から四〇〇の節目にあたり、いまこそ證大寺は生涯聞法の道場としての再興が内外より願われていくことを感ずる。證大寺に勤める我々が、自らが先頭に立って聴聞し、また聞いたところを語り合う場を開いていきたいと念願している。

證大寺住職 井上城治

## 当日の日程

- 日時 平成28年2月3日
- 場所 證大寺 本坊（江戸川区春江町4-23-1）
- 対象 證大寺パートナー 計64名

### ■スケジュール

<u>8:30</u> ～ <u>9:00</u>	30分	集合・お朝事
<u>9:00</u> ～ <u>9:15</u>	15分	休憩・準備
<u>9:15</u> ～ <u>10:00</u>	45分	報恩講勤行
<u>10:00</u> ～ <u>10:45</u>	45分	開講挨拶・住職挨拶
<u>10:45</u> ～ <u>11:00</u>	15分	休憩
<u>11:00</u> ～ <u>11:20</u>	20分	職員感話Ⅰ
<u>11:20</u> ～ <u>12:05</u>	45分	三明先生法話Ⅰ
<u>12:05</u> ～ <u>12:50</u>	45分	昼食
<u>12:50</u> ～ <u>13:10</u>	20分	職員感話Ⅱ
<u>13:10</u> ～ <u>13:55</u>	45分	三明先生法話Ⅱ
<u>13:55</u> ～ <u>14:05</u>	10分	休憩
<u>14:05</u> ～ <u>14:25</u>	20分	職員感話Ⅲ
<u>14:25</u> ～ <u>15:10</u>	45分	三明先生法話Ⅲ
<u>15:10</u> ～ <u>15:20</u>	10分	休憩
<u>15:20</u> ～ <u>15:50</u>	30分	職員総括
<u>15:50</u> ～ <u>16:00</u>	10分	休憩
<u>16:00</u> ～ <u>16:35</u>	35分	班発表、感想
<u>16:35</u> ～ <u>17:15</u>	40分	三明先生への質疑応答
<u>17:15</u> ～ <u>17:20</u>	5分	大坊守挨拶
<u>17:20</u> ～ <u>17:25</u>	5分	住職挨拶
<u>17:25</u> ～ <u>17:30</u>	5分	恩徳讃、散会

開講挨拶 松田 大空 法務部長

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

お早うございます。ご法話の前に私の感じたところをお話しさせて頂きたいと思ひます。本日は、報恩講ということでお集まり頂いたわけですが、報恩講とは何でしょうか。今年から初めてご参加して頂く方もおられると思ひますので、報恩講とは何だろうかということを考えてみたいと思ひます。深い味わいのところは三明先生のご法話のなかでお話しして頂けると思ひますが、報恩講といえば親鸞聖人ですね。親鸞聖人のご命日の集いであるわけです。親鸞聖人は十一月二十八日のご命日でございますので、一年に一度十一月二十八日のご命日をご縁としてお集まりになるご法事、親鸞聖人のご法事なんです。法事です。親鸞聖人の法事を勤めていく浄土真宗の最も大事なお勤めなんです。浄土真宗というのは何のお寺ですか。浄土真宗といったら何ですか。報恩講を勤めるお寺ですよ。報恩講を勤めてこそ浄土真宗というお寺の意義があるんだらうと思ひます。そういうことで皆さんが一堂に会してお念仏を申させて頂いたわけです。お念仏は聞いての通り見ての通り（※勤行本をしめして）最後は三重念仏です。初重、二重、三重と上がっていきますので最後はほとんど叫びですね。本当に仏様のご恩を、仏様の御教えに出遇った喜びと感動を『正信偈』、力一

杯の感動を『正信偈』にお念仏、和讃、お念仏、和讃とくりかえし勤めていく形を蓮如上人がつくって下さって、その如来様から賜ったご信心のお喜びをあらわしていこうとなると叫びでしかないですよ。本当にありがたいなと思った時には静かに何もいうことがない。何もいえない。只々深く座って味わっていく。禅宗であればそういう風になるんでしょうけれども、親鸞聖人は何もいえないということでも座り込む、ずっと座り続けていく、そういったことじゃなくて親鸞聖人は本当にこの思い切りの如来の御教えを頂いたご恩になんとしても感謝申しあげたい、どうしても報謝せずにはおれない、身を粉にしても骨を砕いてもそうせずにはおれない。こんな気持ちになった時には叫ぶしかなかったんだと思いますね。叫ぶ方を選んだんですね。黙ってしまうんじゃない。黙って座り込むのでなく立ち上がって叫び続けていく。その人の名前をどこまでもどこまでも叫び続けていく。そういったことが思い切りの真宗大谷派の声明という形で、南無阿弥陀仏が、お念仏が申された。それが今、皆さんと一緒に勤めた報恩講のお念仏であったんだろうと思います。親鸞聖人の報恩講ということでは職が朝勤行の法話から何度も繰り返しいわれたのが自分事。自分事としての報恩講。自分にとつての報恩講ということでも何度も繰り返して仰って下さいましたよね。それは親鸞聖人の報恩講に集う願いというのは、親鸞聖人のご信心の学びですね。どのような信心を賜っていかれたのか。親鸞聖人はどのような生き方をされたのか。どのような学び方をされたのかを学んでいくのが、私達が真宗の教えを聞いていく姿勢なんですね。親鸞聖人の学び方に学んでいきましょう。このよ

うな心がまえです。そのなかで親鸞聖人自身がすべてを自分事として受け止めていかれた方なんですよね。私は親鸞さんの学び方に学ぶ。親鸞さんほどのような学び方をされたのか。すべて関係のないものはなにもない。すべて一つひとつどんな小さなことだったとしても自分とすべてが関係しているんだ。すべては自分事としっかり受け止めて生涯を生きられたのが親鸞聖人の生き方なんですよね。それが自分事としての報恩講を勤めていってほしいとの住職の願いの言葉になっているんだろうと思います。親鸞聖人はご本尊に手を合わせられる時にも、このご本尊が立っておられるのは自分のためだと。南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏と私に振り向けられた私事なんだ。こういうふう

に頂いたんですね。  
弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり

『歎異抄』後序 聖典六四〇頁

このことなんです。「親鸞一人がためなりけり」この言葉ですね。私のためだったんだ。この仏様がお浄土から私たちの娑婆世界に立ちあがって飛び込んで下さるといふのは、わざわざ立たしてしまったのはこの私の

されば、そくばくの業をもちける身にありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかた  
じけなさよ

「かたじけない（地に手をつくように）」「こんなふうこうふうに頭こゝろを垂れて「本当に申し訳ないんだ」そう

いう風なこの私一人を救わんがために如来は立ち上がった下さってるんだ。法蔵菩薩は長い長い間悩み続けられた、このお経さまでいわれる法蔵菩薩のお話というのは私のためであつたんだ。このように受け止めておられるのが親鸞聖人の生き方なんです。その学び方を本日この報恩講において自分事として学んでいきましようということであります。だからこの報恩講というのも私と全く離れないということですよ。中興四〇〇年・證大寺節目の年であります。親鸞聖人の学びの姿勢に学んで中興四〇〇年ということを考えてみましょう。

今から四〇〇年前、学海上人。證大寺において学海と名のられた上人が出て来て下さった。学海。海に学ぶ。本願海。浄土真宗は海の教えだと思います。本願海。群生海。群生海において本願海をどこまでも学んでいく。群生海にあつて本願海をどこまでも学んでいくんだ。学海とはこのように（自己の名前を）頂いたのではないですか。この学海上人が浄土真宗・お念仏の教えに帰依されて、お念仏の教えを頂いて、この證大寺をお念仏のお寺として立てていくんだ。こういったおmoi「おもいたつころのおこるとき」『歎異抄』第一条 聖典六二六頁）で立ち上がって下さった。そして浄土真宗となって四〇〇年経って今私の下に皆さん一人ひとりの下にお念仏を申させて頂いてるご縁を受け継いでくださった。それを考えると学海上人がこの世に生まれてくださったのが私一人のことであるんだ。こんな風に考える。こんな風に受け止めていくわけですよ。中興四〇〇年記念とただそれだけで終わるんじゃないなくて、学海上人が浄土真宗という、このようなお念仏の教えを

頂けたのは私のためのご苦勞であつたんだという風に受け止めてみませんか。證大寺が浄土真宗となつて続命院の地でお念仏の道場を開いてくださつて、そのままだったら私は出遇わないですね。更に更に先代住職が開教のために御苦勞してくださつて道場をご相続し、親鸞聖人の頂いた教えを自ら頂いて伝えていく。大変なご苦勞だと。そのような證大寺・昭和浄苑。大きな聞法道場、教えを聴聞していく場をつくられたのも私一人がためである。その證大寺の願い、證大寺の灯を絶やさないと頂いて、證大寺は報恩講を勤めて行くんだと、そのような願いの下に、今日のこの日、この時間において、共に手を合わす。そのことが大事なんだとおもひ立って、ここに皆さんが集まつて下さつた、その報恩講も私一人のためであるんだ。このように頂いて本日一日報恩講のご法話を私一人のためにお話し下さつておるんだ。一人ひとりの感話も私一人のためにこのことを話して下さいおるんだ。この方が生まれたのも私一人のためであると頂き、そのような生き方をさせて頂きたいなという風に思っています。親鸞聖人はお釋迦様が生まれた大きな意義は、この世に生まれた大きな甲斐は阿弥陀様の本當の願い。私共を必ず救い取るといふ誓い。このこと只一つを私達に伝えんがために、この世に出て来てくださつたんだ。お釋迦様もこの世に出て来てくださつたのも私一人がためなんだ。

二五〇〇年前の方ですけれども人間として生まれて来たお釋迦様。お釋迦様は兜率天とそつてんにおつてお母さんのマールヤ夫人のお腹のなかに宿つた。そしてお母さんと一緒に人間として生まれて来た。人

間として生まれたお釋迦様が出家をされた。そして六年の苦行があつて色々な煩惱に妨げられながら、魔がさす。いいこと悪いこと色々なことが誘惑となつて襲いかかるも本質を見極めて魔を退けてお悟りを開かれる。そして、四十五年間の説法をされて八〇歳の時にクシナガラの地で涅槃に入られた。こうやつてお釋迦様の一つひとつの出来事におきましても私一人のためであつた。それには深い因縁があるんだ。こういったことを親鸞聖人が大事に受け止められておられるのでしよう。

菩提樹の下で悟りを開かれたお釋迦様は、悟りの内容を私達に話す気はなかつた。何故なら「**無上甚**

**深微妙の法**」(『三帰依文』)は私たちが容易には理解できない深遠なる教えであるからです。この悟

りの内容をもし誰かにしゃべつたのであれば、聞いた人はかえつて迷つてしまふんじゃないか。かえつてご迷惑をおかけするんじゃないか。もはや、私の中だけに留めて涅槃に入つてしまおう。こ

ういう風にお釋迦様は当初思われたんですね。そういつた時に大事な出来事、梵天勸請ぼんでんかんじようがおこります。梵天というのは人間界の主であるから代表ですね。私達を代表する梵天がわざわざお釋迦様に

「どうかお釋迦様、あなたの気づかれた教えをどうぞ後世のために話してもらいたい。誰もわからないかもしれない。だけれどもたった一人でも救われる人がいるのであれば、その人のためにその深遠なる法をお説きください」ということをお願いするわけなんです。そして梵天のお勧めによつて釋尊は立ち上がつて教えを伝えていく。それが法輪山(證大寺の山号)の由来である転法輪。法が車輪のように回りはじめるといふことになつていくわけなんですけれども、その梵天がお願い

したというのは、私を代表して下さったんだ。涅槃に入ろうとされた釋尊を起してわざわざ立たして四十五年の説法をさせたのも私一人がための責任があるんだ。私がお願いさせてもらったんだと受け止めていけば、釋尊二五〇〇年の歴史を親鸞聖人が頂いて、そして先代も頂いて、住職も頂いて、この報恩講の場を開いてくださったのも全部私の責任であったという風に頂けるじゃないか。私はそのように思ってるんです。私がそのことをお願いしたんだと。どんなことがあっても教えを聞かねばならないんだ。私一人のためだ。私はそういう風な思いをもってこのお釋迦様の人生そのものを自分事として受け止めて教えを聞いているものでございます。長くなりましたけれども今日は、「親鸞一人がためなりけり」というお言葉を深く味わって、親鸞聖人の学び方に学ぶ報恩講、親鸞聖人のご法事、今ここに集まった者の責任としてしっかりと教えを聞いていく報恩講、私事、自分事としての報恩講を、皆さんと共に聞法してまいりたいと思います。今日一日宜しくお願い致します。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

## 住職挨拶 井上城治 證大寺住職

みなさん、おはようございます。大空さん、素晴らしいご挨拶有難うございます。今、大空さんからお話があったように今日は證大寺の中興四〇〇年を記念して開催された報恩講です。

私は教えを聞くまでは寺に生まれてもその意義がわからず、仏教の言葉は自分にはまったく関係がないと思っていました。二五〇〇年も昔のインドの話なんて自分には関係ないとまで思っていました。私は三明先生に遇わなければ、お寺といっても、報恩講といっても、意味もわからずに行事ややってるようなもので、お寺を仏教の教えを聞く場所にしないで、派手にイベントをしているようなものなんです。

四〇〇年前に中興の祖である学海上人が、證大寺を浄土真宗のお寺としてやるんだ、とにかく教えを聞く場所として建て直すんだという願いを持って立ち上がられた、それが現在の證大寺のスタートなんです。そうしますと中興というならば、なにを願いとして学海上人が立ち上がったのかを確かめることが大切だと思うんです。三明智彰先生から、お寺は木材や畳などの目に見える材料で建立されているんじゃないかと、願いが根源なんだ。願いによって生まれたんだと教えていただきました。その願いを私は受けたいんです。このお寺を建立した学海上人やお寺を今日まで守ってくれ

た人が本当に良かったといえるような場所でありたいんです。このお寺は他ではないお前のために  
建立し、伝えてきたんだという願いを真に受けたいんですね。この願いのバトンを私たちは託され  
ているんだと私は思うんです。

本日は報恩講です。報恩講とは親鸞聖人の命日を縁として開かれるご法事です。報恩について、  
親鸞聖人は「知恩報徳」と教えています。そのように考えると、私たちが、現在、ここにこのよう  
にしていることについて、私たちは誰かの世話になってきた背景があるはずで、そのことに向き  
合う機会を持たずに暮らしている私たちに、自分自身の背景を大切に作る機会として、報恩講とい  
う形で親鸞聖人が、そして親先祖が大切にしてくれました。證大寺の「事業目的」である「感  
謝と尊敬にあふれた自分に目覚める」という言葉は本当に大事だと思えます。誰の世話にもならず  
に自分の力で今があるんだ、ということではなく、本当にお世話になりましたと気付けるような、  
もしくは自分の至らなさに気付かせていただけるような、本当に恩徳讃を歌えるような人生を生き  
たいのです。そのことを確かめる機会が、私は報恩講だと思えます。本日は中興四〇〇年の記念報  
恩講です。中興というならば、なにが中興され、大切にされてきたのか、本日はそのことに改めて  
向き合い、確かめる時間になりたいのです。今日一日は参詣者の対応ではなく、自分自身の報恩講を  
勤めてまいりましょう。

感話テーマ

「私のたった一度の大切な人生を、證大寺で働く意味」

# 職員感話 I

佐藤	古澤	小坂	佐藤	山田
和美	二郎	恵子	綾	茜

## 職員感話Ⅰ

山田茜さん感話（企画本部・企画事務課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

お早うございます。企画本部・企画事務課におります。山田茜と申します。四月からこちらでお世話になっているんですけれども、正職員として迎えて頂くことができましたので皆様宜しくお願い致します。一番初めに話させて頂くというのは大変恐縮なんですけれども、私はこちらで勤めさせて頂く理由と致しまして、はじめはすごくお寺というのをやっているのかな、興味本意でこちらで勤めさせて頂くんですけれども、ご葬儀だったり法要だったりお墓の管理、想像通りではあつたんですけれども色々ご住職の話ですとかご法話だったり実際に森林に行かせて頂きました色々話とか伺ったうえで、とても思いの強いお寺であると気が致しました。というのは温かいところというのを感じまして、思いやりとか感謝する気持ちというのが溢れているんだというのを感じることが出来たと思うんです。それは当たり前のことだと思ふんですけれども他の仕事をしていたら気づくことは出来なかったと思つたので、とてもすごいところで働いているんだな。そういう気持ちに気づかせてくれたと今となってはすごく感謝をしています。そういつた気持ちを周りに感謝するつもりだったたり思いやりをもって良心的な大切なことを皆に知って頂く、そういう気

持ちをもってお仕事させて頂くというところで今私がいる管理事務所の方でそういった気持ちを大切に広めていきたいなと思うのと、この気持ちは森林・船橋、本部の方々に思いが広まって、それが更に参詣者の方々に広まっていったら、それは多分適うのがこの證大寺であるとの気持ちを持っています。そういう気持ちを持って働かせて頂いておりますので宜しくお願い致します。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

### 佐藤綾さん感話（管理本部・総務課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

お早うございます。管理本部・総務課 佐藤綾と申します。本日はお疲れ様でございます。今日も一日宜しくお願い致します。

本日のテーマ『證大寺で働く意味』としまして、こちらに來たご縁を考えます。

私は、自分の意志だけではなく住職や皆様のお蔭でここに在り、こちらで続けて來られたのは、ご縁のお蔭だと思っております。しかし、只中におりますと働く意味というのが見えなくなることもございます。そういった時、自分が亡くなった後「この證大寺で何をして來たんだろう」と考えますと、證大寺がどういった場所であるか、又は自分が今何をしなきゃいけないかが見えるような気が致します。この證大寺は平安時代から続く歴史を持つているお寺であります。この現代におきま

して形骸化しております『葬儀・法要お参りの意義』を確かめていき、広めて行こうとする場所です。ここで自分が何を出来るか、又、死んだ後に私はこれをして来たと思えるようにならねばと思いました。

永代供養墓が森林・船橋に建立されましたが、私たちは永代にわたって護っていかねばなりません。永代にわたって證大寺が続くために、私の仕事と致しましては證大寺の行く末を決めて頂く基となるデータをつくらなければなりません。皆様のご協力を頂き、次なる業務に向って行きたいと思っております。そしてこれまで続けてきた證大寺、先代、坊守含め歴代住職に恥ずかしくないようなことをしなきゃいけないと思います。

自分が亡くなった時「私はこれをして来た」と思えるようになることが私の願いです。まとまりませんが以上です。有難うございました。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

### 小坂恵子さん感話（船橋昭和浄苑・営繕サービス課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

私は船橋昭和浄苑で女子営繕をしています去年三月から證大寺でお仕事させて頂いて私自身自ら證大寺を選んでというよりも家に帰って来たような気が致します。元々神社とかにも興味があ

り私の祖父は神主をしていたのでこれもご縁なのかなと思っています。私は前職で障害を持った子供たちのデイサービスで働いていました。一人ひとりの個性というようにいわれていますが私は個性というより、一人ひとりの性格という方が受け入れやすかったです。その子達と関わりを持ち一日の行動共にしてきて、いつもどうしてこの子たちは生涯を持って生まれて来たのだろう。もしこの子たちが健常者で生まれて来ていたらどんな人生を送っていたのだろうといつも思っていました。正解などありませんが、ないと思います。善し悪しをわからず命を終えることを考えると切ない気持ちで一杯でした。證大寺で働くようになりご遺体が来る度にこの方はどんな人生を送ってきたのだろうとか、最後に楽しい人生だったのかなと考えるようになりました。先日私の友人は亡くなり余命宣告二〇年もないといわれて周りからみるといつも明るく元気で楽しい思いをしました。彼女は残された人生を大切に楽しく生きて来られたような気が致します。正に今なんですけど私は人間関係で悩んでいます。色々考えていると私の行動は本当に正しいのかエゴではないのか。これがご縁だというならば私は何に気づいて何を学べば良いのか。に直面しています。私は證大寺で働いていることで今までの人生に問いに気づき学びなさい。とつながりがあり導かれて来たと思っております。この證大寺の節目の年に私はこういう時代に生まれ、證大寺とのご縁を大切にして行きたいと思っています。とても貴重な時間を證大寺に頂いていることを誇りに思います。一皮二皮変わっていけるように頑張っていきたいと思えます。證大寺で学んだことを子供たちや皆さんに伝え

ていければと思います。最後に私の最後の言葉を伝えたいと思います。「おてんとう様はちゃんと見ている」です。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

### 古澤二郎さん感話（森林公園昭和浄苑・営繕サービス課バス送迎班）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

改めまして皆さんお早うございます。森林公園・昭和浄苑マイクロスバス送迎を担当しております。と共に昭和浄苑・マイクロスバスを二日間やってるんですけども日曜日、月曜日と。その後は勝手に森林公園昭和浄苑に誰にも来て下さいとも何にもいわれてないですね。住職の許可を取ってなく勝手に昭和浄苑の朝のお参りに来ておりました。四年目になるんですけどもまんざら私少しずつでも変わっているかなとも感じましてですね。どこが変わったかといいますが、解りませんが、考えが違ったと思ってきた今日です。

たった一度の大切な人生を證大寺で働く意味ということを難しい感話なんですけれども私なりの話を聞いて頂ければ幸いかなと思っております。宜しくお願いします。私は一九四四年一月六日、父母から生を受けてですね非常に感謝しております。生まれて一年六ヶ月中国から引き上げてきました。非常に両親には感謝しております。今年は申年ということで私も六回目の年を迎えることが

出来ました。これも周りの人たちの色々なお助けを頂いた感謝と思っております。こうなるとは思っておりませんでしたので感謝しております。私は七年前に四十五年続けました仕事を退職しまして、その後六ヶ月くらいは好きなことをやったり清く正しい生活をしていたんですけれども、ふと気がつけばですね私の周りに人がいなくなりまして。会話がなくなります。行くところがなくなります。「あれ、こんなはずじゃなかったのにな」「もっと楽しくなるはずなのにな」いう感じでいましたところ昭和浄苑の方で何かの縁がありまして一遍挑戦してみようということ得意込んで毎日通うようになりました。私はマイクロバスを運転をしながらお客さんと色々会話するのが大好きです。仕事も楽しく毎日やらせてい頂いております。色々悩んだ末、居場所はここかなと、という感じがしまして参詣者の皆様に心温まる接し方を常に考えながら運転をしています。バスに乗る参詣者様の皆様をですね、バスの運ちゃんには話しやすいんでしょうね。色々部屋から声をかけますと楽しい話ばかりですね。非常に楽しい仕事をさせて頂いております。これから昭和浄苑の宗致、浄土真宗をですね伝えていくことに努力をして行きたいなと思っております。私の人生のピリオドは證大寺・昭和浄苑かなと思っております。こういうことを考えるのは私不思議でして、私の人生の最後、證大寺でピリオドを打つんじゃないかなと不思議に思っております。これも自分が證大寺に入って自分の考えが変わってきた証拠かなと思っております。今後とも證大寺を大切にしながら勤めさせて頂きたいと思えます。これで終わりにさせて頂きたいなと思っております。ありがとうございます。

した。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

### 佐藤和美さん感話（森林公園昭和浄苑・窓口サービス課）

南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏

森林公園窓口サービス課 佐藤和美と申します。よろしくお願い致します。證大寺に入職する一年半前から、「死」を身近に感じる事が続きました。それは高校時代からの親友が一年半前に亡くなり、続いて一年前に父が亡くなりました。大切な人を続けて失い、そこから学んだのが「死を意識して生きる」という事です。亡くなった親友は明るく華やかで常に前向きな人でした。高校時代からキャビンアテンダントになりたくて努力して念願を叶えました。仕事で行った世界中から絵葉書を送ってくれました。その親友がお母様の介護で仕事を半年間休職し、看取り、葬儀を終えた時に親友自身に癌が見つかりました。余命一年と宣告されました。あらゆる治療をほどこしましたが余命宣告を受けてから二年後に亡くなりました。明るく強かった親友が最後にくれたメールは「もうダメかもしれない」という短い一文でした。私はそのメールに返信ができませんでした。人一倍頑張っている親友にこれ以上「頑張れ」とは言えなかつたし、病状を鑑みると「大丈夫治るよ」とは言えなかつた。そして私が返信をしないまま親友は亡くなりました。父から聞いた最後の言葉は「ス

ミマセン」の一言でした。仕事に行く時「いつてきます」と言うと、小さく手を挙げて「すみません」と小声で言いました。父と私は性格がよく似ており、互いに悪いと思っても謝ることができず、散々喧嘩をしてきました。父から初めて謝られてドキッとしました。出勤前で時間がなかったのでその言葉を聞き直す事もせず、その言葉が最期となり今生の別れとなりました。證大寺に入職し「朝には紅顔ありて夕べには白骨となれる身なり」（「白骨の御文」 聖典八四二頁）を知りました。二人のことを想うと何ともいえず胸に響いて、生死を感じました。僧侶のご法話を頂き仏法を学ぶうち、あの時は何も言えなかったけれども今だったら最期の言葉に返す言葉は「ありがとう」その一言で良かったんだと、そう思うようになりました。感謝の気持ちをあの時伝えられなかった事に今とても後悔しています。父が亡くなりお墓探しをしている時に森林公園昭和浄苑を知りました。その後すぐに窓口の求人がありご縁を頂き内定を頂きました。しかしその後、私自身にも病気が見つかり入院・手術を経験しました。その時、親友と同じように私も親を看取って「自分も死ぬんだ」父と同じ病院で同じ検査をするうちに、私も父や親友と同じように余命宣告を受けるんだ。と最悪の事を思いました。幸いにも私の腫瘍は良性で完治しました。今 こうして證大寺の皆様と一緒に自分が健康に働けて今日の職員報恩講という場所で、あの時の辛い経験をこうして話している。「生きていく」という事の喜びを感じます。又、病気のために入職を一カ月待つて頂き、證大寺で働かせて頂いていることに感謝の気持ちが溢れて参ります。昨年のお手町の特別講座は生老病死がテ-

マでした。私にはその心構えが何一つできていませんでした。大切な人の最期に何も言う事ができなかった。自分が病気になってもその準備が何もできていないので悪い事しか考えられなかった。仏法を学び物事を受け止めるしなやかなで折れない心を持つ事が大切なんだと思うようになりました。これから證大寺で働く上でたくさんの方と出逢いさまざまな経験をしたいと思います。その時に「ありがとう」と言えるようにそしていつか自分が「死」を迎える時に出遭った方々に感謝し、生まれて良かったと思えるように教えを学んでいく事が證大寺で働く大きな意義であると思います。以上を私の感話とさせて頂きます。

南無阿弥陀仏・南無阿弥陀仏

講題

「和合衆の願い」

法  
話  
I

三  
明  
智  
彰  
師

## 第一講

この度は證大寺職員報恩講の法話を仰せつかり参らせて頂きました。六十数名のみなさんと一緒にこの場でよくぞ遇えましたね。ふだんは漠然と何事も考えないまま暮らしておることが多い私どもですけれど、今回テーマは「たった一度の人生を證大寺で働く意味」ということです。今五人の方の感話をいただきました。感話の中で難しいテーマをよくぞ受け止めて、お話し頂いたことと思います。大体どうでしょうか。自分のこの今の居り場所そのこと自体を考える。そういう課題は難しいのです。

何故かという私どもは外側ばかり見るように感覚器官がなっておる訳です。目は外を見るし、耳も外の音を聞き、鼻も外の香りを嗅ぐのでございまして、大体皮膚もそうです。感覚器官からして外側の情報を取る。そういうように生きておるのが私どもです。普段はつまり外側のことをあれこれ考える。ということで現在只今自分がいる。自分で自分のことを考える。自分で自分の居り場所を考える。そういうこと自体が大変稀なことである。難しいのです。感話のテーマが「證大寺にいる意味」、そういう感話をお互いに聞くことは稀なことです。こういうこと自体が大事なことです。自分が自分の居場所について考えたことがない。大方は私どもそういう調子でおるわけです。現代社会全体がそうです。そこで正しく今ここに居るといふこと、このこと自体を考えなきゃいけ

ない。ここに身を据えて、場所が教えて下さるといふことがあると思ひます。今ご住職様もお寺がなければこうやって遇えなかつたんだとおっしゃいました。私もここに参らせて頂いたといふことを改めて驚きを持ち、有難いことだと思ふ訳です。

有難いといふことは有ることが難しい。有ることが難しいといふこと自体が驚きです。反対言葉はいつも私申しあげておる訳ですが当たり前。どういふことでも当たり前じゃないか。そういう調子で私もそのようにしておる訳ですが、本当のところは、有難いことです。

證大寺の皆様方がお集まりを頂いて、この度はよくぞ準備をされ、皆様よくご参加されたことと思ひます。

報恩講とは何か。先ほどもご挨拶のなかにもございました、親鸞聖人のご命日をご縁として感謝、報恩の思ひを新たにす。そういうお集まりです。特にこの報恩講について、室町時代の蓮如上人が『御俗姓』御文を書かれています。特にこの真宗の教えといふのを人々に広く弘められた方でございます。大体基本はご本尊に向かつて右は親鸞聖人、左は蓮如上人といふ掛け軸をかける形になつておる訳です。

その報恩講といふと、本日は『御文』はよまれませんでしたが、報恩講によまれる『御文』。その中に資料をお出ししましたが

此の一七か日報恩講中において、他力本願のことわりをねんごろにききひらきて、専修一向の念

仏行者ならんにいたりては、まことに、今月聖人の御正日の素意に相叶うべし。これしかしなから、**眞実眞実、報恩謝徳の御仏事となりぬべきものなり。**あなかしこ、あなかしこ。

〔御俗姓〕聖典八五二頁

こういうような『御文』がございます。報恩講を何故営むかについてこの『御文』の名前は『御俗姓』の御文と申しますが、親鸞聖人が藤原氏にお生まれになったところから書き出しておられる訳でございます。本人を見てくれといっても本人のことはすぐには解りません。自己紹介といつても本人を見れば一番いいんでしょうけど、あの人はどこで生まれてこういうお家だったよ。親鸞聖人は藤原氏の生まれである。そういうところから書かれているのが『御俗姓』です。「俗姓」というのは生まれの苗字です。そのご生涯を辿って親鸞聖人の導きについての感謝、報恩の集いが報恩講である。折角報恩講にお参りをしたからには他力本願の理をきちんと聞いて、専修一向の念仏行者になり信心決定の歩みをしていくように、こういうようなことが報恩講の意義であります。ということ述べておる訳です。

左手余間に親鸞聖人の生涯のあらましを絵にした御絵伝がかけられています。生涯のあらましの絵をかけて報恩講を営む。年に一度一番大事な行事であるというのが報恩講です。

何しろ私どもは、人として生まれたということがまず稀な機会を得てのことであるということですから。覚如上人は、昨年のお話の中にもふれました「**弟子四禅の線の端に、適、南浮人身の針を貫**

き」(『報恩講私記』聖典七三八頁)と人間誕生の縁を述べられておる訳です。高い天の上から糸を一筋垂らして、地上にある針の穴を通る機会をもつて人として生まれるということですよ。

自分で針を握って、糸を通すということは若い内はなんでもないのですけれども、年を取ると難しくなりまして、簡単ではないわけですよ。まして数メートル離れたところから針の穴を通すのは出来ません。天の上から糸を垂らして地上にある針の穴を通す機会なんて有り得ないということですよ。そのような機会を得て私自身が人の身を受けた。こういうことをいうのは仏教しかない訳ですよ。条件きつかけが整わないと、私は人として生まれない。お父さんとお母さんから私は生まれたと、簡単ことでない訳ですよ。兄弟だって違います。親は同じなのに。失礼な話ですけどもつまり工場で出来る車や色んな機械とは違うということなんです。子供をつくるとかそういう話とかがありますが、つくって出来るものではありません。昨日から今日のニュースは凍結した卵子を受精させて人が生まれるとそういう話まで科学は進んでおりますけれども、それにしても子供が出来るというのはプログラムで子供が出来るのではないでしょう。出来た子供は、たとえ凍結卵子であっても、保存された精子であっても受精を人工的にされたとしても、つくったというより出来たというべきですよ。そういうことで、人間の作為がどうしても及ばない。そういう稀な機会を得て私は人として生まれて来た。そのようなことを教えてくれる仏教にお会いするのも稀な機会ですよ。そのような教えである仏法を聞こうとしない。人として生まれたのに仏法を聞かない。聞くというのは大変稀なこと

なのです。ほとんど有り得ない。

稀な機会を得て人として生まれ、仏法に遇った。更にここに集うたということはそれぞれのご縁があつて、本日の今の時間に合うようになったということですが、このことについて誰か策略組んだ方がいるのでしょうか。どうしても都合によつて出られない人もいます。だから、こうやつて遇えた。このことが、稀な時なのです。これは私の計画、打算、はからいでは出来ません。それを他力というのです。他人の力を当てにして怠けるものだから他力本願は悪いことだと現代社会ではいわれておりますけれどもそうではないのです。自分の思いの他の自分を生かしてもらっている真の道理というのを見出したのを他力というのです。つまりここにいるということ。つまりここにいるということ自体が他力です。

わかりやすくいうと感謝の言葉でございます。お蔭様というのをあらわす言葉です。「あなたのお父さん元氣ですか」「はい元氣です」「そうでしょう。私のお蔭です」という人はいないでしょう。お蔭様というのは陰ながら、はたらいて下さるはたらきがあるお蔭で父は元氣であります。そういう人が私を支えて下さった。そういう感覚が他力なのです。

私共は、この人生には無駄なことはひとつもないのです。ずっと願いがかけられてきている。願ひへの目覚めは、病氣になつて病氣に学ぶということによつてもある訳です。

人が死んだら終わりだとみれば、この世は無駄で空しい人生かも知れませんが、実は死ぬという

こと、亡くなったということ身を以て示す。

身近な方が亡くなるということ縁として、それに関わった時は現在只今の自分の人生の意義が問われる。考えるようになるということです。そういう点でいうと無駄ということはないのです。無駄では済まされない。願いが自分にかけている。そのように頂けば心臓ひとつも、心臓の鼓動も、願いの鼓動、願いが心を打つ。そういう具合に頂いていくのが他力本願の理です。逆にいうと他力の反対言葉の自力というのはお蔭様でなくて「全部俺の手柄だ」と考えるのが自力です。こういうのは仏教用語の意味ですけども、大体元々の仏教用語を深く曲げて日常使われていることが多いのです。言葉が悪い方向に使われていく。という傾向があるのです。ですから本願、こういうことが改めて触れる。知識的なことだとしても證大寺にご縁が出来たお蔭でそういうことを知った訳です。普通の證大寺で関わらない人で国民の大多数ほとんどは自力は自分の努力、他力は他人の力、それで考えておるんですよ。現在只今自分自身が様々なご縁を頂いて、様々なお世話になって今日自分はいらんだ。そういうことをちらっと思うけど、きちっと考えることをしないままま過ごしている。そういう点において今ここにお遇い出来たということは大変なことなんです。そういう現在の居場所ということを考え、更には自分自身の人生にとって大事な場所である。こういう具合に頂けるようになるというのが本当に幸せなことではないでしょうか。

私共が共に遇い、この場の意味を確かめる。人として生まれて生きる意義を考える。こういうこ

とは是非ともなければならぬことなのです。意味わからないで何事かすることほど無駄なことはない訳です。意味を頂いていく。そういうことなのです。

それで色々申し上げるべきことはあると思いますが、まず皆様方昨年と同じように證大寺の理念を最初に御一同で声を出して読まれました。その意味をきちんと受け止めて日々の仕事をす。これはとつても大事なことです。

嫌々働いているからそれについての自分の自由を譲り渡した分給料を得るんだ。自分自身が嫌々でなくて、この場所に関わる。感話の中にありましたが自分のささやかな勤務が実は日本国までつながってる。そういう意味がある。つまりは世界につながっているんだ。私のようなものが何したって世界でつながるものがないんだ。とかではなくてつながってるんだ。ということなのです。

そういう道理を頷くというのが真実信心のお話しということで受け止めて頂ければよろしいのではないでしょうか。普通は信心というと神さまが見えないけどいるんだ。いるに違いない。極楽浄土がわからないけどあるに違いないんだ。力んで思い込む。度々申し上げますが「パパ信じてるわよ」というのは「信じてないね、相当疑ってる」。「坊や信じてるわよ」というと「下手するなよ」。そういうので信心というのは曖昧なのです。曖昧というかおかしいことになっている。そこまでは信じられないわ。アンビリーバブル。信じるということが信じられないということになっている。つまりここに様々な書類を整えて「はい、わかりました。〇〇でしたら信用しましょう」「お金貸し

ます」書類を整えなきや、それについての印鑑、判子一つという証明。それがないと信用できない。疑いの固まりということ。そういうのでなく、現在只今の様々な条件が整い今こうしているということ自体が大変なことだ。そういう領きが信である。そういう具合に見て頂けないといけない訳です。それですから「どういうところにお勤めですか」。胸張って「證大寺・昭和浄苑に勤めます」そういうことを胸張っておっしゃることが出来る。ということが大事なことだと思ふ訳です。それこそ尊敬であり感謝であり、それこそが自己自身への尊厳性、目覚めるということ。そうしますと自分自身が尊敬出来ない人が他人を尊敬することは出来ません。

他人を軽蔑している人は自分を軽蔑しているでしょう。自分自身の現在只今の生き方の尊さに気づかせて頂くというところに感謝、尊敬というのが出て来るのではないですか。そういう学びは生涯しなければならぬのでありまして、「五年前に解ったからいいわ」ということではありません。ですから、七十二歳の方の感話もありましたが、日々新たに頂いて生きて行くんだということではないでしょうか。だから生涯聞法を大事な目印として歩んで頂きたいと思ふます。それでこの度は證大寺は中興、再興四百年。最初に興って中程で興って後興る。そういうことになりませんか。再興は、前に興っていたものが廃れて後で興る。中興といったら中程で興す。再興は前に興っていたものが廃れて再びそれが興った。

このお寺の歴史をきちんと振り返って四百年経つと数えられたということは素晴らしいことだと

思います。

それぞれのものはすべて歴史的関係性がある。それを仏教用語だと因縁といいます。そういう点でいうと感話にもありましたが、平安時代から由来がある。平安時代に筑紫の国の観世音寺の続命院に證大寺の由来がある。観世音寺というのは古い古い奈良時代まで遡るようなお寺です。九州に跡地がございます。観世音寺といったら大体もう由来が確かだといってまして東本願寺の学寮にしまして、筑紫の国の観世音寺の学場を江戸時代に新たに京都に移したということにして学寮を始めました。そういう形を取っている。

また、蓮如上人のお弟子さんに、赤尾の道宗という人が「親に遇いたい、親に遇いたい、親の顔が見たい」そういう具合に求めたところ筑紫の国の観世音寺のにつこり微笑む石像があなたのお父さんの顔だよというような話があります。

とにかく筑紫の国の観世音寺といったらよく話題になったのです。そこに由来がある證大寺である。その證大寺が中興とか再興とかいわれるについては、やはり廃れたんでしょう。それが新たに興された。学海上人の證大寺再興の意味を四百年たつて今現在この東京の地に於て確かめる。そういう年に当たっている。その意味は大変大きいと思います。

それで再興と中興というのは先ずすぐに話題になるのはやはり浄土真宗の歴史においては蓮如上人の真宗再興ということが目印なのです。親鸞聖人の代から数えて八代目の人が蓮如上人です。本

願寺が蓮如上人の時代に急成長した、そのところを指して真宗再興というのです。

目印となるのは「弟子一人ももたずそうろう」(『歎異抄』第六条 聖典六二八頁) 親鸞聖人の言葉です。「御同行御同朋」この言葉が目印です。この精神が現在私共の根本を貫く大事な精神である。休憩を頂きましてその後お話しをさせて頂きたく思います。



感話テーマ

「私のたった一度の大切な人生を、證大寺で働く意味」

## 職員感話 II

鍋島やよい  
河野久美子  
齋田 信一  
山田 誠一  
大塚 祐子

## 職員感話Ⅱ

鍋島やよいさん感話（江戸川本坊・営繕サービス課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

江戸川本坊・営繕サービス課の鍋島やよいです。どうぞ宜しくお願い致します。こういった場所に立たせて頂くと、とても緊張するのですがこういった機会を頂けることを感謝しております。ありがとうございます。證大寺の事業理念は葬儀や法要・お参りを通して社会貢献をして行くことを前回行われた證大寺全体のパートナー会議で皆さんと話し合って意義を教えて頂きました。今までは社会貢献に対する意識が低く自発的に世の中に成り立つことをしていこうと、そういった事業に参加して行こうと思ったことがありませんでした。昨年のパートナー会議をきっかけにして初めて自分が社会貢献をしている職場にいるのだと自覚を持つことが出来ました。仕事以外の日常生活を過ごす中で折に触れてこんな時、浄土真宗の教えではどんな風に捉えるんだろうか。と證大寺の事業としてはどう対処していくのかという風に考えるようになりました。そういった感覚を磨くことの出来る環境がここにもあります。素晴らしい環境を築いて下さった多くの方々が礎になって今もこの場所にいらっしゃるのだと感じています。私も證大寺のパートナーとしてこの業に報いて行かなければ申し訳ないという風に思ってきましたし、しっかり姿勢を正して行こうと引き締まります。

午前中の皆さんの感話や法話を頂いて私にとつての本願寺が證大寺なのだと感じました。本日の職員報恩講を通して證大寺を築いてあげて下さった方達の願いを学んでこれからも聞法を重ねて敬意と感謝の心を持って働いて行きたいです。以上です。ありがとうございました。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

### 河野久美子さん感話（船橋昭和浄苑・営繕サービス課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

船橋営繕課の河野久美子と申します。昨年の三月に入れて頂きもうすぐ一年です。私は昨年自分が生きてきたことについて考えてみて今まで自分のこと家族のこと家のことなど自分の力の一二〇%くらいパワフルに駆け足出で来たような気がします。それは物凄く自分が思い切りやって来たので後悔は何もありませんがこれから先考えてみるとこのようなペースではとても送れないと思いました。それでももう少しゆっくり暮らしたいなと思っていました。これから先私は今までお寺とか仏様に余り接する機会がなかったんですけど将来お世話になるだろうなと思いましたがもう少し触れたいなと思った時にインターネットで船橋昭和浄苑の求人広告があり応募してみました。ご縁があつて入れて頂きとても感謝しています。仕事は花はお水あげたり浄縁墓のお掃除とかなんですけれども、とても心が安らいでお朝事はわからないことも一杯あるんですけれども、ほっとする瞬間で

す。去年の暮れにお墓をお掃除に来た方がいて家族三人でピカピカに磨いていたんですね。そんなのを見てここのお墓に入っている方は幸せだなと思いました。私も出来ることなら船橋の郊外の緑の多いところで事情が許すならばこんなところで眠りたいなと思いました。四〇〇年も続く證大寺でお仕事させてもらって私は今感謝しています。ありがとうございました。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

### 齋田信一さん感話（森林公園昭和浄苑・ご相談サービス課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

森林公園昭和浄苑・窓口サービス課の齋田信一です。宜しくお願い致します。最初に私がこうやって健康で働いていけるのは本当に皆さんのご支援、ご協力のおかげだと思っております。この場を借りて感謝申し上げます。今回感話に当たりまして私は考えました。この證大寺の一番の特徴とどうか他の職場と違うところというのは、本当の自分と向き合う機会が折に触れてある所です。何を通して自分と向き合うことが多々あります。今回もそうです。これまでいろいろなことがありましたけれども、自分のことをわかっているのは自分ではないと昨年は感じまして感謝の足りない自分、すぐに戻ってしまう謙虚さの無い自分であるとか、実は参詣者の方とお話ししても、なかなか人の話をきちんと聞けない自分とか、そういったものがすべて自分では意識しないで、そういう

自分だと気づかされまして、本当にそういうことを気づかされるこの場が大事な場であると思っております。次に「感謝と尊敬に溢れた自分に目覚める」という事業目的がありますけれども、これは自分の中で聞いた瞬間から非常に素晴らしいと思えました。私には感謝と尊敬が徹底的に欠けていると思っております、ただいろいろなことについて自分一人でやっている訳じゃない。感謝と尊敬が溢れているような自分になりたい。自分がそうになったら今度はそういう人で溢れる職場にして、その後は世の中が感謝と尊敬に溢れたら、世の中の色んなことが変わってくるんじゃないかと思えました。すごく素晴らしい事業目的で、それをここで実現していきたいと思えました。最後に私がいつも心のどこかで思っていることは、みんな人間として生まれてきて、それぞれ一人ひとり何かをするために、成し遂げられるかどうかかわりませんが、やったという達成感そういうものをやるために生まれて来たと思っております、そういうものが各々何か一つはあると思います。私も自分にとっては何かまだ模索しておりますが、そういったものに出遇った時はこれだと思うかどうかかわりませんが、自分がこの世に生まれて来た意味とかやるべきことをやるだけやって、最後に亡くなる時に「自分はこういうことに出遇ってしつかりやれたから良かった、またはやり切れなかったけども良かった」ということで人生を終えたいというのが心の隅にいつもあります。この證大寺で働く限り、そういう場というのが色々ありますけれども、そういったものに少しづつでも近づいていけるような場であると私自身思いましたので、私はここで働く意味とい

うのはそういったことになります。まとまりませんが終わります。ありがとうございます。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

### 山田誠一さん感話（森林公園昭和浄苑・営繕サービス課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

こんにちは。森林公園・営繕サービス課でご納骨や苑内の清掃の手入れの仕事をさせて頂いております山田と申します。本日はこのような聞法の機会に参加させて頂いてありがとうございます。私にとってたった一度の大切な人生を證大寺で働く意味ということで、色々仕事していて気づかされることが多いです。参詣者様に苑内で挨拶したり、ご納骨の時にお手伝いをさせて頂いたり、そのようなことで墓持ち様や参詣者様と関わりを持っております。その際、参詣者様に「いつもきれいにさせて頂いてありがとうございます」とか「車いすを押して頂いてありがとうございます」というような言葉をかけられることがあります。「さてこの方どなただったか」とわからなかったりして、そのような言葉を頂くと非常に恐縮してしまいます。私にとっては仕事をしている立場です、やって当たり前のことですが、感謝の言葉を頂いて非常にありがたく思いますし、こちらこそ「ありがとうございます」と感謝の気持ちを感じております。感謝の言葉を頂くと自分自身仕事をやっていくうえで非常にやり甲斐を感じますし、證大寺で働いてて良かったと思う瞬間でもありま

す。お寺は故人様のためのものではなくて、今を生きている私たちというか、お坊さん体験を通して小さいお子さんに尊い仏教を伝えたり、仏教講座では聞法したり、散歩の会やヨガのような健康に関する会であったり、浄縁の集いでは寺友・お友達関係をつくったり、悩みごとの相談をしたりというようなことを皆でやれる。そういう場所で参詣者様やお墓持ち様、一般の方がお寺に関わるということ、人それぞれ一度しかない大切な人生、私たちにとっても一度しかない人生ですが、人の人生の一部に触れ合うということ、で非常にやり甲斐のある仕事だと感じています。参詣者様から頂いた感謝の言葉をさらに私達は参詣者様に感謝してお返しできるような仕事をして行きたいと思っております。以上でございます。ありがとうございました。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

### 大塚祐子さん感話（江戸川本坊・窓口サービスク）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

江戸川本坊・窓口におります大塚と申します。宜しくお願い致します。感話させて頂きます。今回は私が證大寺にいる意味は何か。ということを考えて頂きました。それは二点あると思います。一つは仏事の継承、後の世代の方に伝えたいということと、ご門徒の皆様が意義のある通夜葬儀を執り行って頂くためのお手伝いをするために證大寺にいますと考えました。今私の心の中に二人

おります。一人は祖母なんですがお念仏者です。朝に夕に「なんまんだぶ、なんまんだぶ」畑行くにも「なんまんだぶ」挨拶も「なんまんだぶ」ですと通しております。そのお念仏する姿を小さい頃から見て来たのは私の母です。母はその姿を見て子供の頃から何かを感じていたのではないかなということがございました。それはある日近所の方が亡くなった時にお通夜ご葬儀終わりましたご遺骨をご自宅に安置した後、次の日から毎朝ご遺骨にお参りをしているんですね。欠かさず四十九日までお参りしていました。子どもの頃、祖母にお参りする意味を教えてもらったことはいないと母は言っておりますけれども、祖母のお念仏する姿を見ていて、自然と手を合わせる大切さを子供の頃から学んで来たと思っております。これが継承かと思いましたが、最近お墓を継承することが難しいとか、自分が亡くなったらどうなるんだろうとか心配する声はよく聞きます。昔から受け継がれた仏事が最近では途切れてしまっているのではないかと心配する声はよく聞きます。昔から受け継がれた仏事というのは悲嘆の軽減に大切なことだと思っております。もう一度昔に戻って仏事の大切さを考え、次の世代に受け継いで行かねばならないと感じております。江戸川本坊では夏休み一か月間小学生を中心に子供たちが毎朝お朝事に来ております。夏休みだけではなく私は日々こちらに来て頂いてお参りをして頂いて私も一緒にですね「正信偈」をあげたり、お焼香をしたり顔合せたりして自然と仏事に触れて頂いて次の世代の子供たちが受け継いで頂きたいと思っております。もう一人私の心の中にいる人は、昨年その人を亡くしてしまいました。勤め先での最期だったのでお別れ

が出来ないままのご葬儀でしたが、證大寺・住職はじめ皆さんで枕経をあげて頂きお通夜ご葬儀も執り行って頂きました。その時にですね私は最期の姿に遇った時心が乱れてしまってたんですが、少し心が落ち着いてきたように思いました。お通夜の夜、私は彼とお話をさせて頂きました。ここで私は彼との出遇い直しが出来たのではないかと感じております。このように最後のお別れが出来ないままの葬儀でしたけれども、大変私に取って意義のある葬儀を執り行って頂いたと私は感謝しております。最近直葬や一日葬等、葬儀を軽視しているような葬儀が増えておりますけれども、やはり直葬や一日葬等で茶毘に付したら取り返しのないことになってしまいます。大切な方が亡くなつてここで出遇い直しが出来なければ、この先ご家族の方がずっと後悔しなければならないと思っております。残された家族が生きていくためにも、私がここにいる限り今ある葬儀を執り行うことを皆様に伝えていかなければならないと思っております。まず私自身が念仏を申し参詣者の方がどのような願いを持っていたかを考えながら、私は一日一日を大切にご門徒の皆様へ接して行きたいと思っております。私の感話とさせて頂きます。ありがとうございます。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。



講題

「和合衆の願い」

法  
話  
II

三  
明  
智  
彰  
師

## 第二講

資料の終わりの所に報恩講の和讃をお出しを致しました、その内の和讃を拝読したいと思います。

他力の信心うるひとを

うやまいおおきによるこべば

すなわちわが親友ぞと

教主世尊はほめたまう

『正像末和讃』 聖典五〇五頁)

五人の方から感話を頂きました。それぞれが證大寺にお勤めであるということの意義をきちんと考え向き合っておられると感じました。

組織には組織の確かめ事というのがなければならぬ。それが證大寺においては明確に示されるようになったということ、数年の取組のご様子をうかがって参りました。明確な三つの願いを確かめて歩みをしておられるということは大変尊く感じます。

午前中にも、自分の命の終わりを考えて自分の人生何だったのかということについて現在から悔いのない人生を生きていかなくてはならないということを感じますという感話がありました。おつ

しやる通りのことでございます。親鸞聖人の教え子にしましても親鸞聖人のお墓を訪ねて親鸞聖人の教え、親鸞聖人その人と向き合って自分自身の生き様を顧みる。お墓参りというのも、亡くなった人が迷わず成仏して下さい。浮遊霊になって遺族に祟らないでというようなこととは違うのでありまして、お墓にお参りすること自体が人生を顧みて人生を学ぶ大事な営みなのです。こういうことをするのは人間しかない。

證大寺というお寺において、勤めは證大寺ですけど自分は給料を得ていればいいんであとは関係ないというようなことでなくて、ご自身が主体的に関わって頂くようになれば得ることは大変大きい訳です。

この場所自体が学びの場所である。教えに基づく場所である。この場所におられるということ自体が自ずから教化力というのがございます。

毎日教室におれば教室の影響があると思います。古くは「孟母三遷の教え」です。孟子という人がどうして歴史上に残るような思想家あるいは道德教育の人として残っているか。それは環境が非常に大きい影響力があるということです。證大寺に縁があつて勤務なさるようになったら少なくとも三年は勤めて、「石の上に三年」というんですから表裏表と引っ繰り返して三年です。

感話の取り組みをしておられますから證大寺は、それこそ学びの場所という意義がいよいよ明らかになって来たと思います。一緒に勤めている人がどういう気持ちでいるかということとはなかなか

わからない。感話を聞けば気づきがある。

とにかく出遇いの場所であるということは大きな喜びです。大体、人と物と金が集まると揉め事が多いというのは私共の世の中なのです。それはどういうことかというのと、他人のせいではなく、自分自身がそういうものなのだといいことです。自らが集団の中に平和におるというためにはどうすればいいのか、そういうことをきちんと顧みることになればよろしいと思います。

いない人の悪口は当たり前どこにでもある。自分がその場にはいないと、いつ悪口いわれているかわからないということですから、安心して出掛けられないとか、或いは安心して職場から帰れないとか、いなくなるとすぐ悪口いわれるから悪口いわれないためにはずっといなきやいけないとか、こういう場面も組織として多いのです。

どうして組織の活力が失せて来るかというのと、お互い誉め合うよりも貶し合うことが多いからです。それで日本の会社も或いは町内も振るわなくなっておるのです。これを突破するのに「和合衆」というのを目印にしていかねばならない。そういうことで真宗再興の願いを生きる、先ほど蓮如上人のことを出しましたが「和合衆」の願いというサブタイトルとして出させて頂けばいいんだなどいうことを思う訳です。「和合衆」とは今日も「三帰依文」の三番目の「僧」が「和合衆」です。これも度々お話もありご存知のことと思うのですがインド語の「サンガ」を聞いて当て字をしてこの字（僧伽）を書いたんです。インドはインド文字。インド文字は表音文字、これが中国に入りまし

た時に漢字に直して漢字に当てはめた。音を写してこの音を聞いてこの文字を書いた訳です。意味は何ですかというところにもお出ししました「和合衆」なのです。「和合衆」というのは譬えがございまして四つの大きな川が一つの大きな海に入ると一つの味になる。川の水の流れは土地によってそれぞれ色も匂いも成分も違いはあるけれど海に入れば同じ塩味になる。そのように人間は和合していくんだということです。そういうことはなきやいけない。そういうのは『阿含経』という古いお経に釋尊がお述べになっている訳です。四つの大きな川というのはこれはインド社会の階級制度が本でそういう話が出てるんだと思います。インドの歴史というのは中央アジアから出てきた北方騎馬民族がインダス河周辺のインダス文明を形成した人々を侵略してインドを支配するようになった訳です。先住民を虐げてそれで支配してきた訳ですがその時の国民人民を分断して支配する。そういうことでバラモン、クシャトリア、バイシャ、スードラ四階級を設けて、これをさまざま由来の階級制度と規定して、この四階級の在り方は永久不滅であるとインドの大国支配するのを固定化した。

これを打破しようとしたのが釋尊です。四つの大きな川が一つの海に入れば同じ味になる。そのように生まれ、階級、職業はどうであれ仏教に帰依すれば皆平等である。本来人間は平等だというのが仏教である。僧伽の精神です。水と油は混じらない。どれほど攪拌しても分離してしまいません。水と油ではなく水と乳の関係です。これが僧伽の精神です。

僧伽の者の苗字が「釋」である。帰敬式にいたたく名のりです。縦にひいても横にひいても切れない剃刀を当てるので切れることはないですけれども、何故剃刀を当てるかというと元々頭の毛をつるつるに剃った。それが修行者になるという形だった訳です。仏教教団に入るという時にはおつむに剃刀当てて剃ったのです。それはつまり地位や家柄や職業、身分をあらわすスタイルを離れるということですよ。そうしたらどんな人でも毛を剃ってしまえば大体似たような頭です。大体そうです。頭も色々あるといっても大体共通している訳なんですよね。そう大差はない訳です。それでそういう帰敬式を行った時に頂く苗字というのが今も浄土真宗においては釋の字なのです。今までの田中とかそれぞれ家柄、源とか平とかそういう苗字を離れて釋と名告る。こういうので法名「釋〇〇」という名前を頂くというのです。同じく釋尊の子供、釋尊の教え子です。そういうのが形でもって名前も名告りでも和合衆の精神をあらわしているということですよ。それが親鸞聖人の教えの在り方というのが丁度、釋の精神、和合衆の精神を實踐しておるといふことです。時代的に鎌倉時代という主従関係が厳しい時代な訳です。主人と家来。師匠と弟子。親と子供。そういう分け隔てというか序列は厳しい時代だった訳ですよ。そういう時に親鸞聖人が沢山の教え子がいたんですけれども「弟子一人ももたずさうろう」(『歎異抄』第六條 聖典六二八頁)ということです。これは『歎異抄』の第六條。今資料を見ましたら職員報恩講の目的の中にも出ている言葉でございます、その文章を見ますとご住職の文章ですけど右側のところに親鸞聖人は「親鸞は弟子一人ももたずさう

ろう」と述べその理由として私自身が仏様の教えを学ぶ一学徒であるので弟子を持たず。仏様に学ぶ同じ生徒、同朋同行であると、ここのとこです。正しく出処というのが資料の一枚目の一つ目の言葉なのです。

一 専修念仏のともがらの、わが弟子ひとの弟子、という相論のそうらうらんこと、もつてのほかの子細なり。親鸞は弟子一人ももたずそうらう。そのゆえは、わがはからいにて、ひとに念仏をもうさせそうらわばこそ、弟子にてもそうらわめ。ひとえに弥陀の御もよおしにあずかつて、念仏もうしそうらうひとを、わが弟子ともうすこと、きわめたる荒涼のことなり。つくべき縁あればともない、はなるべき縁あれば、はなることのあるをも、師をそむきて、ひとにつれて念仏すれば、往生すべからざるものなりなんどいうこと、不可説なり。如来よりたまわりたる信心を、わがものがおに、とりかえさんともうすにや。かえすがえすもあるべからざることなり。自然のことわりにあいかなわば、仏恩をもしり、また師の恩をもしるべきなりと云々

『歎異抄』第六条 聖典六二八頁

「云々」というのは「まだまだおっしゃられたことはあった、その要点を知ることにはあった」ということです。『歎異抄』の第六条の言葉でございまして、親鸞聖人はどういうことをおっしゃった

かということをお弟子の唯円が聞き取って書き留めたものなのです。證大寺の夏の子供たちの集いには『歎異抄』を暗記して発表する。「子供だったら意味は解らないでしょう。」といますが、意味をわかってから言うのではなく、口ずさんで読んで意味内容が解ってくるということの方が本当のことです。

「あつそういう意味だったのか」と。子供の時には意味わからないで歌っていた曲ありますね。でもそれを覚えているから大人になってから「そうだったんだな」と解る訳です。「兎追いし彼の山小鮒釣りし彼の川」(※『故郷』の歌詞)とは何ですか。大人になってみれば「兎を追いかけた故郷の山だな」ということになる訳です。それから「あした浜辺を　さまよえば」(※『浜辺の歌』の歌詞)で、「あした」とは tomorrow ではなくて朝だと。そういうことが大人になってわかる。意味わからないから歌わないというのはわからないままですからね。そういう点で『歎異抄』もまず口ずさんで読むようになれば「弟子一人もたずそうろう」とか「如来よりたまわりたる信心」とか何か言葉が残る。命は平等ということです。たとえ私の子供であっても私がスイッチを押して心臓を動かした訳ではない。私の子供だというけれども宇宙の摂理を頂いて、はたらきを頂いて心臓は動いている。あるいは息をしている。「彼は私の子供だから私の自由に出来る」「彼は私の弟子だから」生殺与奪の権は私の方が握ってる。生かすも殺すも親の方に権利があるとか、師匠の方に権利があるとか、主人に権利があるとか、そういうのは間違いだということなのです。

宗教の話だいうところで留めないで、発展解釈すればよいのでしよう。私共の存在意義のことを述べていると気付けば宗派的限定を離れて真の道理だとなると思います。

子供がものを覚えるようになることも、「私が教えてやったから覚えたんだ」ということではないの。子供は親の言葉遣いを黙って見て、言葉が言えるようになるのです。

こちらのお嬢さんの雅香さんもどんどんものをいうようになってきました。周りの言語環境があるからです。教え込んだ訳ではないのです。学び取ったのです。驚きと喜びがある。

念仏申すということは、親鸞聖人がおっしゃるには「弥陀の御もよおしにあずかって念仏申す」とございまして、無理やり言わせてるのと違うというのです。

阿弥陀とは無量無限です。命と光が無量無限であるというのが阿弥陀です。命はどこが由来ですか。遡ると地球の歴史にさかのぼる。あるいは地球よりも宇宙から来たかもしれない。

現代は、お産の後にうつ病になる人が多い。それはエストロゲンというホルモンがお産の時に急に減少する。そうすると寂しくて寂しくてたまらない。そのせいで母親は大変子育てに悩む。その時に周りに誰もいないような核家族では赤ん坊と自分と向き合う。どれほど言い聞かせても泣き止まない赤ん坊、どれほどお乳やっても、お乳も済んだおしめも済んだ全部問題ないはずなのに、それでも機嫌が悪い赤ん坊。この辺の団地でも赤ん坊と向き合って気がおかしくなりそうな若いお母さんがいっぱいいるはずなのです。

それはどういうことかいうと五百万年前に人類は共同して子供を育てるという育て方を編み出したことに由来がある。赤ん坊を抱えながら集まる。今のママ友の由来ではないか。公園デビューなんて言っています。公園から離れて自分の家に帰れば核家族ですが。原始時代以来共同して子育てをしてきたのが人類である。

自分が山に木の実を取りに行く。その時には子供を連れて行けないから預ける。自分の子供を預ける生きものはほかにはいない。自分の生んだ子供を預けて食われたら大変ですから、大体は預けないものでしょう。

人間以外では、ゴリラの一種だけがお互いの赤ん坊を抱くという。人間の特徴です。赤ん坊を預けて山に物を取りに行く。取って帰って来たら分ける。自分で取って来た物を分ける。

赤ん坊が泣くと丁度お乳が出る女性が他人の赤ん坊にもお乳あげる。そういうので育て合ってきたものだということです。今もそうなんです。私共に原始本能がある。人は群れずには生きていけない。そういう私共は現在自分が抱えたものでない大いなるはたらきのもとに生きている。こういうことの気づきの言葉が大いなる命に感謝します。そういう意味が南無阿弥陀仏です。

また、真の道理に頭が下がりますというのが南無阿弥陀仏です。光は道理や智慧をあらわす。それから命は慈悲をあらわす。また命ですから由来です。それから親は二人。祖父祖母は四人。曾祖父曾祖母は八人、曾曾祖父曾曾祖母は十六人、三十二人、六十四人、どんどん数代遡れば何万人の

人が一人欠けても私はいない訳ですから、そういう命の歴史それについて関わりがずっとあって私はいらんだと。こういうことの領きというのが「弥陀の催しにあずかって念仏申す」そういうことになるじゃないでしょうか。また「そうだったのか」と気が付くのも頭がいいから気がつくものじゃない。頭の良し悪し離れて「そうだったのか」と気が付く。これは勉強して問題が解けるようになったのも喜びでしょうけど、それより深い喜びです。自分自身に深い歴史的背景があつてここにいる。一点一画もゆるがせに出来ない自分の存在性なのです。こういうことに気がついた時に大いなる喜び。この喜びは今度は自分だけでない。お隣の人もそうなの。そういうことで喜びというのは更に掛け算になるのでございましてせっかく希に会つた者同士で睨み合わなきゃいけない。智慧のないことです。それなのに同じ場所にいる者同士に限って腹が立つというのはどうしてか。怨み憎しむ者と遇わなきゃいけない苦しみ。怨憎会苦。こういうのが人間の苦しみ。こういうのが釋尊の教えの四苦八苦。四つ八つの苦しみなんですけど、その本は何かというと、何故苦しむかという思い通りにしたいからです。思い通りにしたいという根性をエゴイズムという訳ですし、それを自力という訳です。思い通りにしたい。思い通りにしたいと思わなきゃ、思い通りにならなくとも腹立たないです。思い通りにしようとする人に限って思い通りにならないのでね。それで腹立つ訳です。お互いにお互いがそうですから、ついには小さい食い違いでも恨みになり憎しみになるんです。そういうのが怨憎会苦というんですが相手が自分を苦しめている訳ではないのです。それで一回

考えてみるという方法があるのです。普段はほとんど考えてないけど自分はどうか。自分も相手を嫌だ嫌だと思うから、相手も自分のことを嫌だ嫌だと思つらく当たつて来る。そういうこともあるのです。いつもは自分中心でものを考えていますから「イヤな奴が来た」と思う訳ですけれども、自分も相手にとつてイヤな奴。そうに違いないからお互いそうなる。そういうことをちよつとは考えてみたらどうか。人から言われても、簡単には「はい」とそういえないですよ。いくら上司にいわれても「いつてるアンタだつてそうでないか」という気持ちが腹の中にあるから、中々受け取れない。

その点やはり仏様に手を合わせるという形で省みさせてもらうと、こういうことに気が付くということがあつて、一日何遍かとかかく手を合わせてお参りするという時間が必要なのです。それがまた、お墓参りがご縁になつたりお寺参りだつたりするのです。更には、お墓に来た時には本堂にお参り下さい。御本尊に手を合わせてお参り下さいませ。こういうことが大事なことです。御本尊は人の形をしていますがね。人に向かうような気持ちで手を合わせられるからです。しかし何もいわない訳です。何もいわないから良いですよ。自分はどうなのかと省みさせて頂くからです。

生きてる人だつたらポーズを取らなくてはならない。「何かいうか？何かいわれたらいい返すぞ」との気持ちでいますが、何もいわない仏像に向かうと自分自身が自分自身のことを省みさせて頂くようになる。

そうすると気が付くのは、自分自身の方に問題があるのではないか。全部自分のせいだとは行かないかもしれないが相手だけ悪いのではない。エゴイズムが自分が自分を傷つけ相手も傷つける。そういう道理がある。それが自力。自力はエゴイズムです。だから自力の計らいを、要注意という教えなのです。気づきがあるのです。この「弟子一人ももたず」という言葉の出処について触れました。時間です。ここまですべて頂きたく思います。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏



感話テーマ

「私のたった一度の大切な人生を、證大寺で働く意味」

## 職員感話 III

河内麻衣子

山本 尚代

永澤 薫

高橋健太郎

久保愛海子

## 職員感話Ⅲ

### 河内麻衣子さん感話（企画本部・企画事務課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

企画本部・企画事務課の河内です。私が證大寺で働く意味を話させて頂きます。入職したのが九月なんですけれども今回自分が證大寺で働く意味について、自分が何故證大寺で働きたいのかを考えました。思い出して見た時に人に役立つ仕事がしたい。證大寺ではその思いが適うのではないか。その思いから応募したことを思い出しました。約半年経って今自分がここで働いている理由は何だろうと、人の役に立てるとかという思いがあって自分は働き続けているのかな。と思った時にそれだけではないと感じています。それ以外のところで何故働いているかと考えた時にここ證大寺は学べることが多く自分自身が成長できる場所があるから、そう思いました。一つは葬儀のことです。お墓のこと、今まで自分が全く知らなかったことが学ぶことが出来る。お墓はその家の長男の方が継ぐ。その当たり前のことすら知らなかった。もし自分が死んでしまった時に今現在入る場所がない。今現在知ることが出来ました。二つ目の理由は毎朝のお朝事や行事の中でお話もそうだなと僧侶の皆さんや住職、そして講師の皆様方からも法話の中で頂ける学びも大変多いと感じています。昨年の四月に私が飼っていた犬が亡くなった時に犬が亡くなったタイミングで一年ぶりに全員集まること

があつてそれをきっかけに家族全員集まることが出来るんですけども、その時は不思議だなと思つてたんですが今であれば犬が死をもつて私達家族に出遇えなおしをさせてくれたんだ。そういうような気が致します。三つ目は参詣者の方々の表情やお話から学ぶことが出来ること。今までの自分の祖父祖母や大学時代の実習先で出遇つた老人ホームの入居者というのは口癖のように「行きたくない」とおっしゃっていました。それは普通のことだと思つていたんですけども参詣者の表情から今をより良く生きることが出来るかというのは自分次第であるということを学ばせて頂きました。本当にこういうことは證大寺でしか学ぶことが出来ないと思つていて自分自身が少しずつ変わつていくのを感じます。これからも證大寺で沢山学び成長していきたいと思ひます。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

### 山本尚代さん感話（江戸川本坊・営繕サービス課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

営繕サービス課の山本と申します。感話させて頂きます。私に取つて證大寺は身の丈を知り立ち止まらせて頂ける場所です。営繕課の日々のお仕事は本当に大切なことを気づかせて頂ける温かい場所です。例えばお掃除は黒を白にする。悪いことを良くするはたらき。悪いことが起つていく時に目の前の悪いことのせいにしない。自分のふがいなさを知らせて頂いていふと考える。それと

様々な方々へのお接待おもてなしは相手が何を考え、何をしてもらいたいか、何をしてもらいたいかとお気持ちを探し、そのお気持ちを少しでも寄り添えるよう努力をするはたらき。問題を解決するより問題を見出すことの方が大事と考える。そして自分の所属以外の職員の方々のお仕事は十年から一〇〇年もしかしたらそれ以上のことを考えてお仕事をされています。ご住職を初め熱意溢れる聞法のメンバーに囲まれ日々よき熱を伝えさせて頂いております。證大寺をより良いものにするために日々同じくありたいと思っております。他どの職場でもこれほど深く人生にあてはめ考えさせて頂きながらお仕事をさせて頂ける場所はないと思っております。たった一度の人生だからこそ證大寺でお仕事をさせて頂くことを選んだのです。これから今までお寺を支えて来られた人々の大切にして来た事を時間をかけて少しずつ理解していきたくらいと思っております。お仕事上の時間目標は一番近くで見ている人、自分のことを見てくれる人・夫だとか、同じお仕事をしてくれている人たちから、私ではなくトイレ掃除をしてくれる方が美しいよ、といってもらえるような掃除の仕方をしたいと思っております。終わらせて頂きます。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

永澤薫さん感話（森林公園支坊・昭和浄苑 営繕サービスク）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

森林で営繕をさせて頂いております。永澤です。どうぞ宜しくお願い致します。私のたった一度の人生を證大寺で働く意味とは何だろうと自分なりに考えてみました。私が證大寺で働きはじめて一年四か月が経ちます。私が證大寺を見た時「私達の仕事は感謝に溢れています」という文字が入って来ました。そしてこの言葉がとても心に響きました。感謝の溢れるとは一体どういうことなのでしょう。と応募したのがきっかけです。幸いにも働けることになりました。そして今まで働いてきたなかで私は素晴らしいと感じてる時があります。一つ目は森林の皆さんの仕事に対する意識の高さです。仕事への姿勢、参詣者の皆様への応対など自分でこなすということではなく相手の立場に立って対応しているのを見ると必然的に私も次はどんなお声掛けをしたら良いだろう。どんな行動を取ったら良いだろう。考え行動できる人間になってきたように思います。二つ目は挨拶や気持ちを引きちんと言葉で伝えることです。参詣者の皆様への挨拶は勿論のこと、例えば私がカウンタ―テーブルを拭いていた時でも「ありがとうございます」といって下さるところです。私に仕事は営繕なので掃除をすることが当たり前なのですが、そのことを当たり前と思わずに「ありがとうございます」といって下さると少し照れくさいのと同時にとても嬉しいですし私もやっていることを見ていてくれるんだなと仕事への励みになります。私も何かやってもらった時は当たり前とは思

わずに、きちんと感謝の言葉を伝えようととても優しい穏やかな気持ちになれます。三つ目はこの年齢になっても勉強ができるというのは、とてもありがたいと感じています。親鸞聖人の教えなど今まで学んでいなかった私には正直難しいと思うこともあるのですが今まで知らなかったことを少しずつでも知り学べるというのは自分自身を向上させているような気が致します。もしもあの時面接に行かなかつたら、きっと私は他の会社でパートとしてただ同じことを繰り返すだけの毎日を過ごしていたのではないかと思います。今後自分自身をどこまで変わってけるか事業目的でもある「感謝と尊敬に溢れた自分に目覚める」とはどういうことなのか。これからも皆様と一緒に仕事をさせて頂く中でその答えを見つけて行きたいと思っております。それが私が證大寺で働く意味だと思いません。以上です。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

### 高橋健太郎さん感話（企画本部・推進課）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

こんにちは。企画本部・企画推進課の高橋です。これだけ大勢の方の前でお話しするのは久しぶりなことなんで緊張しております。今日の朝、報恩講が始まる前というところでですね、感話のお話の内容というのは自分の中で考え、考えてた矢先なのですが業務上のことで議題を頂きまして大変勉

強をさせて頂きまして自分に色んなことが足りていなかったと考えさせられました。思いやりが足りていなかったり、配慮が足りていなかったり、甘えてしまっていたな、そのあとお詫びとお礼をさせて頂きたいと思っております。そのなかで一月から今日お話しする内容を證大寺で働く意味と、この話を朝皆様で話し合っただけで考えていたと思うのですが、その話をそのままするのはとても不誠実に感じてしまいました。感じてしまったのでそれをそのままお話しするのは出来ないと思ひまして、本当は働く意味ではなかったと思ひました。皆さんのお話を聞かせて頂きながら働く意味とは何なのだろう。證大寺にいる意味とは何なのだろう。ずっと考えていたのですが、こんなことという怒られてしまうかもしれないかもしれませんが意味は見つからない状態です。あれこれ考えてこういうことをする意味とは何だろう。どうも自分の中で只の理由づけとか動機づけとかでないかと思ひてしまふ。これをこの場をお借りして皆さんの前でちょっと違うかなと思ひまして大変恐縮なのですが答えが出ないまま迎えてしまいました。大変不遜な人間でございまして元々前職営業をしております営業としてやって来ました。営業やっている人間はですね、誠実なこととは程遠い当然私もその一部の人間ですけどお客様の前では自分の契約のこと、そういうことを第一に考えるのが、正直に私もお叱りを頂いたというのが最初は受け入れることが出来ずに色んな感情が沸き起こって来た訳ですが皆さんのお話と違っていたんだなど、気づかせて頂いた。教えて頂いた。證大寺に入って本当に良かったと思うことは僕の上司・小島課長から色んなことを学ばせて頂いて本当に良かったと最初

に思ったんですが叱ってくれる方いるなら自分に勉強する姿勢が足りなかったとか驕り勝ちだったとか改めて教えて頂いたようなので今一つ私が結論としてしていることとしては證大寺で働いてという自分の見つめ直させて頂けるような、そういう環境があることでは私に取って證大寺で働く意味だと今は考えております。ありがとうございます。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

### 久保愛海子さん感話（船橋昭和浄苑・ご相談サービスク）

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

船橋昭和浄苑で窓口をしています。久保と申します。宜しくお願い致します。皆様は物事が思い通りに行かないと思う時はどういう時ですかね。例えば日常生活の日々の生活の中でも様々な思い通りに行かないことあると思います。先ほど三明先生のご法話にもございましたが思い通りにならないこと例えば人間関係でもうだと思えます。自分が願ってきた夢が適わなかったり、大切な人との別れでしたり、思い通りにならないことを憎まれたりすると思うんです。私は学生の頃広報関係の仕事に就きたいと思っておりました。そのために英語を重点的に頑張ろうと思いましたが英会話に通ったり大学のカリキュラムとか他の学科の英語の授業を専攻したりとか自分なりに努力をしてきたつもりだったのですが自分の思うような英語力が身につかなくてその仕事に就くことは諦めて

しまったんですね。證大寺に入職させて頂くご縁がありましてこちらに入職させて頂いたんですけどもこの證大寺の仕事というのは学びの連続で今小さなことでも学び、学びという感じで毎日を通っております。こういうのは證大寺の職員の皆さんからそして参詣者の皆様から得たものです。この職場で得たものは私に取って宝物でして何もわからないところから一つひとつ丁寧教えて下さったのでとても感謝しています。そう考えると果たして自分の思い通りに行かないことは自分のためにならないことなんだろうか。本当に思い通りにいかないものなのかと疑問を抱くような感じでした。その時にですね丁度出遇った言葉というのがあります。その言葉が曾我量深先生の言葉なんです。読ませて頂きたいと思います。

思うようにいかないということは果たして単に思うように行かないことであるか。私はそうじゃないと思う。つまり我々は方向を間違えて本当に自由ということは現在働いていることに満足していることであります。思うように行かぬ行かぬと思えますけれども、これは自分の考え方が間違っているものであって、自分の思い方一つであります。思うように行かぬどころはないことではないと思います。現在与えられている境遇とか不平不満を言われて仕方があるかないかそういう具合にまず自分自身の価値・力というのを内に求めてみれば自分はほど遠いところではない。自分はいくら感謝しても仕切れないほどの数えきれないほどのご縁を受けているということに驚くのであります。

私はこの曾我先生の言葉にすごく救われたような気持ちになりました。この仕事は自分が向いてるのか向いていないのか。ですが与えられた境遇、与えられた仕事というものに一つひとつ乗り越えていく事によって自分自身の可能性の幅が広がるのだということを経大寺で学びました。以上です。

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。

講題

「和合衆の願い」

法  
話  
Ⅲ

三  
明  
智  
彰  
師

### 第三講

南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏

只今は五人の方に感話を頂きましてありがとございました。この證大寺でお勤めの現場においてそれぞれ学びをしておられる。改めて気づきがあるということ率直におっしゃって頂いて大変感銘を致しました。私が更に申し上げるような、そういうことも別にないかなと思うところですけども、しかしながら六〇数名もおれば六〇数名の人同士の関わり合いということについては色々ございますので、それですからお話を申し上げることも出て来なきやいけないんだということを思っております。問題として今『歎異抄』第六条の「弟子一人ももたず」と親鸞聖人はおっしゃったという事情から明らかなことですが我が弟子、人の弟子という相論が発端でございました。我が弟子ということは「俺の」ということです。人の弟子というのは「奴の」弟子ということ。相論は争い。言い争いということ。そうすると簡単にいうと「俺の弟子取ったな」「あの人俺の弟子のくせにあっちに行っている」そういうことで弟子の取り合いという問題です。ですから「師を背いて他の人につき従って念仏すれば往生出来ないぞ」といって裏切り者は幸せにはなれない。そういうこと。いって、よそのところへ行くのを妨げようとする。弟子の取り合いの問題ということです。これは親鸞聖人の時代にしても今の時代にしても教え子が集まるといってそれがそのまま生活にも

諸々の事業にも大きく影響する訳で教え子がいなくなれば立ち処がなくなる。ですから弟子の取り合い、会員の取り合い、そういう問題が必ず起こる。「弟子一人ももたず」というんですから、これは現代の感覚からいうとどうしてそういうことになるかと思うんです。皮肉からすればそんな綺麗ごとだと思って思う人もいるのではないかと思えます。それで親鸞聖人がおっしゃるには「つくべき縁あればともない、はなるべき縁あれば、はなるることのあるをも」(『歎異抄』第六条 聖典六二八頁)「つく」というのは一緒にいるということです。一緒にいる縁あれば一緒にいる。離れるべき縁あれば離れる。つまり自由意志の問題はとても大事だけれども実は縁に左右されていると、そういうのが人間である。こういう様な人間観です。縁に随うということ。随縁。それから縁に遇って生きていますので遇縁。こういうのが私どもの生き様として大きな影響力を及ぼしている訳です。来たいから来たんだ。ということもいえない訳ではないけれども来たくても来れない場合がある。それは縁です。縁を一番感じさせるのは縁談。結婚の話は縁ということを気づかせることなのです。それはどれほど惚れた者同士でも一緒になれない。そういう場合があるのです。憲法に規定されて両性の合意のみに基づいて婚姻は成立する。書いてあるけれどもそうならない場合がある訳です。縁が決めるんです。どれほどいがみ合っても別れられない夫婦もあります。そういうのも縁というのが左右しています。さらに『歎異抄』の中にはそのようになすべき縁が整ったらどんなことでもやりかねないのが人間である。そういう言葉もございます。『歎異抄』の十三条にございまして「さ

るべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」(『歎異抄』第十三条 聖典六三四頁) 實際縁によつてはどのようなこともやりかねない者である。それなのに「よそのところへいったら駄目だ。裏切りものだ」そのような弟子の取り合いをするという。正しくこれが我執というのです。それで我執の故に弟子の取り合いをする。或いは我執の故に自分の思い通りにしようとする。じゃあ我執を辞めればいいかというと実はそう簡単に行きません。止められないです。そういう自分だということまで含めて承知をしなければいけない。というのです。そうやって気づきや学びということが深まって参りますね。嘘をつくのはいけません。だから嘘はつきません。金輪際嘘つきません。というとその事自体が嘘になります。ですから嘘ついていました。またいつ嘘つくかわかりません。という方が正直。普通は嘘つかないのが正直なんですけれども、「私正直になれない者です」というのが正直。嘘つきというのが正直。そういうこともございましてそういうのが私共の生き様であるということに気づかされるのです。それで人間皆平等だと。お念仏の下で平等だというような教えというのは別に念仏申さなくても大体そういう話は見当つく訳ですよね。人間平等とか。しかしながら人間平等ということは、言葉は知りながらも分け隔てをする。

現在は勝ち組負け組、負けた奴はサボった奴、勝った奴は努力した奴。勝った奴は努力した。負けて不遇な立場にいる奴は努力しなかった。それは止むを得ない。そのような論調が行き渡っている。そういう面もあるですけれども、自分がそういう立場になったらどうなのか。頑張ろうとして

も頑張れない場合もある。たとえば「インフルエンザで熱出しました。とても動けません」「弛んでる！出て来い！自己管理が悪いからだ！約束しただろ。熱あっても出て来い！」と。そういうのは無理なのです。状況によって左右されるといふものである。

自分もいつ具合が悪くなるかわからない。立派な偉いものでなくてお互い欠点を抱えているものです。出来るだけ見せないように、目立たないようにしているだけで、実際のところは欠点だらけであり間違いだらけの自分です。そういうところまで承知しないとお互いの人間関係というのは正義に立つ限り成り立たないと思います。

自分が正しいと思う限りは相手は悪い。一瞬に「俺は一生懸命やってるのに、どうしてわからないか」という具合に腹が立つ。「私これほど一生懸命いい聞かせているのに、どうしていうこと聞かないの」また「わたしはこれほど頑張ってるのにどうして理解してくれない。人知れず頑張ってるどころ見てくれないと駄目じゃない」と、そういう気持ちもある訳です。自分を善いものだと思っていると、相手が悪いという具合になる。

ものの考え方。腹が立つからくり。そのような構造であると思いを致して頂いて、形としては逆に自分が取り柄がなくて欠点だらけで間違えることが多い。一旦ことがあると何するかわからない。そういう者であると気付けば、熱出しているなら休め休めと。そうでないと、私共お互いに成り立たないのです。

和合衆の願いというのは和合して生きて行きたいんだと。お互いに仲良くして行きたいんだと。こういうことを皆さん、ご承知のことだと思う。問題はわかっているけどそう出来るかということ。わかっちゃいるけどやめられないということが随分ある。「四海の内みな兄弟とするなり」『教行信証』証巻 聖典二八二頁）として私も承知しているはず。四海の内とは世界中ということ。世界中皆兄弟ですよ。元々兄弟なはずなんです。それがどうして仲違いしてるか。こういうことに気がつかせてもらえるのは、「同一に念仏して別の道なきがゆえに」『教行信証』証巻 聖典二八二頁）念仏によってお互いが兄弟であるということに気がつかせてもらえる、そういうことがあるはずなんです。念仏の中身が問題なのです。

蓮如上人の『御文』の一帖目の第一通で、そもそも浄土真宗の教えというのを人々に伝えていくという時の根本姿勢を室町時代に示したものです。「朝には紅顔ありて夕べには白骨となれる身なり」『御文』五帖十六通 聖典八四二頁）感話の中で出て参りましたけれどもそういう言葉が身に染みて頂かれる教えの言葉が『御文』です。『御文』の一帖目の第一通です。

「ある人いわく、当流のこころは、門徒をばかならずわが弟子とこころえおくべく候うやらん、如来・聖人の御弟子ともうすべく候うやらん、その分別を存知せず候う」『御文』一帖一通 聖典七六〇頁）門徒とは今も門徒さんといういい方ありますね。門徒を俺の教え子だと心得るべきでしょうか。或いは阿弥陀如来、釋尊、親鸞聖人のお弟子だと申すべきでしょうか。ということ。また、

在々所々に小門徒をもちて候うをも」と自分の教えというか集いを持つている。そこに人々が集まっている。「このあいだは」というのは最近は。「手次の坊主」というのは教団幹部です。幹部には隠しておいた方がいいと思っっているが、それは良くないという人がいるので疑問です。上納金の問題です。自分の教室の人数は一〇〇人いるところを十人と申告すれば十人分の上納金で済む訳です。これはお華の方でも書道の方でも自分の生徒さんどれくらいいる。そこから家元に幾ら払う。そういうシステムはございましょう。

現在でもお寺においては一般に門徒戸数とか檀家数によって宗派に納入するお金の増減があるのです。これはお金の問題です。

こういう言いづらい、聞きづらい話というのを一帖目第一通に上げているということ。これが驚くべきことです。これに対して「答えていわく」と問答体の御文なのです。「この不審もつとも肝要とこそ存じ候え」。肝必要で大事という意味です。私が聞いて耳に留めておいておるところを書き留めますのでどうぞお聞き下さい。「故聖人のおおせには」故聖人とは、今は亡き親鸞聖人です。親鸞と蓮如はおよそ百五十年の隔たりがございませう。しかしながら自分の直接の師匠のように「故聖人」といつているほど気持ちのある人なのです。「親鸞は弟子一人ももたず」とおっしゃった方「そのゆえは、如来の教法を、十方衆生にとききかしむるときは、ただ如来の御代官をもうしつるばかりなり」代官というと時代劇で悪いイメージが多いですよ。悪代官・悪奉行。水戸黄門なんかで懲らしめ

られるのは悪代官です。権力を笠に着て庶民をいじめるといふ「お代官様お許しください」というので出て来ます。元々代行するというその通りの意味です。如来の代わりを、代わりといふか代行させて頂くだだけだ。自分がやる訳ではないということ。その地方地方の役目を主人から仰せつかってやらせてもらうというだけ、そういうのを代官といふんです。

「さらに親鸞めずらしき法をもひろめず」、親鸞は全く珍奇な法をひろめるではありません。新しくこの度拵おこしえましたという、そういう話をしてる訳ではありません。つまり二千五百年も歴史伝統をもって伝えられてきた「如来の教法をわれも信じ、ひとにもおしえかきむるばかりなり。そのほかは、なにをおしえて弟子といわんぞ」とおっしゃいました。つまりは俺の弟子と考えるのは大間違いだと述べている。「されば、とも同行なるべきものなり。これによりて、聖人は御同朋・御同行とこそかきずきておせられけり」「かきずきて」といふのは跪かまく。跪くようにおっしゃった。つまり親鸞聖人の目線というのは上から目線でなくて下から目線であるということです。御同朋・御同行というのは親鸞の教え・仏教を聞いて下さっている人々について跪くようにしておっしゃっているという人です。その後「されば、ちかごろは大坊主分のひとも」、坊主という悪い言葉にかかわれますが宗教施設の主というのが坊主なのです。大坊主というのは教団幹部。地方地方のボスの人でございました。室町時代。今の有力者というのもあるのですけどその当時の地元の有力者・大坊主「われは一流の安心の次第をもしらず」、自分自身が教えを聞かないので信心の中身を知らず

「たまたま弟子のなかに、信心の沙汰する在所へゆきて、聴聞し候うひとをば」、自分の部下がよそのお説教を聞きに行くと、そうすると「ことのほか説教をくわえ候いて」、責めるということですが。或いはいじめて「あるいはなかをたがいなんどせられ候うあいだ」よその師匠のところへ行くな。そういう具合にいうので「坊主もしかしかと信心の一理をも聴聞せず」、坊主、教団幹部も信心の一理をも聴聞しない。道理も知らない。「また弟子をばかようにあいささえ候うあいだ」、「ささえ」というのは邪魔するということですが。「われも信心決定せず、弟子も信心決定せずして、一生はむなしくすぎゆくように候うこと、まことに自損損他のとが、のがれがたく候う。あさまし、あさまし」、自損とは自分が損する。傷つける。損他は損させる。或いは他人を傷つけるということです。こういうことは非常に浅ましいことである。残念なことである。このように『御文』が述べられておる訳です。ここに蓮如自身の教団に対する歎きがあるのですけれども宗教団体というのは特にそうなんです。やきもちが強くてよそのお寺へ行くと怒る。そういう住職とか至る所にある訳です。そういうので俺の弟子、人の弟子というそういう思いがある。そういう問題を上げて「弟子一人ももたず」だ。そういうところに立ち帰らなければならぬ。「弟子一人ももたず」ということが和合衆の精神ということになります。

「信をえたらば、同行に、あらく物も申すまじきなり」(『蓮如上人御一代記聞書』二九三 聖典九一〇頁)。信心を得たなら同行というのは同じお念仏もうす人です。そういう人に荒くものをいうべ

きではありません。「心、和らぐべきなり」、心和やかになるべきです。「触光柔軟の願あり」、これは阿弥陀仏の心の光に触れることよって心が柔らかくなるということです。教えを聞くと心が柔らかくなる。教えを聞かなければ心が固くとげとげしくなる。「また、信なければ」、信がないなら、「我になりて、詞もあらく、諍いも必ず出来するなり」。我になりてとはエゴイズムのことです。同行に対して柔らかく接する。そういうのが信のあらわれであるということです。その次のところは北陸地方のご門徒の蓮如上人のところに「久しく上洛なき」と京の都を訪ねて来なくなった。どうしてか。「前々住上人、北国に、さる御門徒の事を仰せられ候う。「何として、久しく上洛なきぞ」と、仰せられ候う。御前の人、申され候う。「さる御方の、御折檻候う」と、申され候う。その時、御機嫌、もつてのほか悪しく候いて、仰せられ候う。「開山聖人の御門徒を、さようにいう者は、あるべからず」(『蓮如上人御一代記聞書』二九四 聖典九一〇〜九二一頁)。開山聖人は親鸞聖人のことです。つまり親鸞聖人のご門徒だという具合に蓮如という人は見ているということなのです。それで次のところの「前々住上人」(『蓮如上人御一代記聞書』二九五 聖典九一一頁)とは蓮如のことです。「御門徒衆を、あしく申す事、ゆめゆめ、あるまじきなり」。悪くいうことはあつてはならないこと。ゆめゆめとは決してならないことだと。「開山」親鸞聖人は、「御同行・御同朋と、御かしき候う」、ひたひた跪いて仕える。「聊爾りょうじに存ずるは、くせごと」、元々粗末に、くせごとというのは間違ひ。それでは続いて「開山聖人の、一大事の御客人と申すは、御門徒衆のことなり」(『蓮如

上人御一代記聞書』二九六 聖典九一(一頁)、繰り返しになります。が親鸞聖人にとっての一大事の客人。一大事とは何が起こっても最優先するというのが一大事です。一大事のお客様というのはご門徒衆のことだと。普通は一大事のお客様といたら朝廷から来た人とか藤原関白の何々とか、或いは江戸時代のお殿様とかそういうのを一大事の客人と普通はいうところです。そこをご門徒衆こそ一大事の客人である。それを自分の客というよりも親鸞聖人のお客様。そうやっていわれてることです。更にすごいなと思うのは御門徒衆の最後のところです。「御門徒衆、上洛候えば」(蓮如上人御一代記聞書』二九七 聖典九一(一頁)、御門徒衆、京都に來た時には「前々住上人」は蓮如です。蓮如上人は「仰せられ候う。寒天には、御酒等のかんをよくさせて」、温かいお酒を出すということ。寒い日に「路次のさむさをも忘れられ候う様に」と、温かくお酒を出した。「また、炎天の時は」、暑い時です。日照りの時は「酒などひやせ」、冷酒を出したらよろしいということです。「御詞を和らげられ候う」。柔らかい言葉でおっしゃった。「また、「御門徒の上洛候うを、遅く申し入れ候う事、くせごと」と、仰せられ候う」。つまり御門徒衆がやってきたら最優先にしなきゃならないお客様なので待たせないでさっさと遇って対面しなさい。普通にはホスピタリティといいますが、お客様を優先する。お客様を大事にする。そういうのですけれどもそういう態度がどこから出て来るかということが問題なのです。それから三枚目のものを見ると蓮如上人はご門徒の進上の物、プレゼントしてあげたもの、「御衣の下にて、御おがみ候う」(蓮如上人御一代記聞書』二九九 聖典九一

一頁）拜んだということです。それから「また、仏物と思し召し候えば」、仏様からのおくりもの。「御自身のめし物までも、御足にあたり候えば、御いただき候う」。自分の着てるものが足に当たつたら「すみません」といつて着物についてお詫びをしたということです。「御門徒の進上の物、すなわち、聖人よりの御あたえと、思し召し候う」、御門徒から頂いた物を親鸞聖人から頂いた物だということに受け取っている。こういうようなことなのです。これはどういうところから出て来るかということなんです。そうするとそれはやはり自分自身は何者かということなんです。自分自身の問題性。そういうのをきちんと気が付いてということなんじゃないでしょうか。これがです、すべてのものが親鸞一人のためのものである。阿弥陀仏の苦勞も親鸞一人のためである。そういう具合に親鸞聖人は自分のこととして受け止める。そういうことなんです、その出処は何か。そうすると「親鸞一人がためなりけり」(『歎異抄』後序 聖典六四〇頁)その後すぐ「されば、そくばくの業をもちける身にてありけるを、たすけんとおぼしめしたちける本願のかたじけなさよ」、こういう具合に続いて述べられておる訳です。そくばくとは数知れないということなんです。業とは悪い行いのことを特にさしますね。気持ちの持ちようで変わり様のないような問題性のことです。数知れない業をもつた問題をもっている、その問題の出処は何ですか。欲望煩惱です。数知れない欲望煩惱をもつた。更に欲望煩惱を持った出処は何ですか。エゴイズムです。数知れないエゴイズム。それを持った自分である。だからそれは自分を傷つけ他人を傷つけ欲が絡んでる、思いはからいである。こういう

ことをむき出しにしたらすべてアウトでしょ。人柄もすべて外されてしまうような、そんな自分であるのを助けようと立って下さったのが弥陀の本願である。本願のかたじけなさよ。こういう具合にすべての阿弥陀仏の苦勞は私一人のためだった。そういう具合に頂かれたということなのです。従ってどの人に遇っても私よりも尊い人だと、親鸞聖人の教え子として蓮如上人にすればまたこれが響いている訳です。親鸞聖人にしてもです。釋尊のお友達が私のところに来て下さったと頂いておるといふことは、自分はいい者だという思いがあればそうは受け取れないですよね。「庶民が来たか」「生活困窮した人が来たか」と見下したような見方をするのが当たり前でしょ。例えば東京の人はどうですか。大都会に暮らしているのでそれ程でも無いかもしれませんが、田舎から出て来た人というのは様子から何からかわかった訳ですよね。「わざわざ遠い田舎から来て」というようなところがあったのです。昔はです。そういうので田舎からわざわざ来た人にも尊敬する心をもって接することが出来るというのは自分自身は何者かということを省みた。その省みた時にわかることは人にはいわないけど、すべての思いはエゴイズムということなのです。こっちは急いでいるのにエスカレーターで両方に立ちふさがっていたら「邪魔だ。どけ」という気持ちになりますね。車でグルグル追い立てられると「うるさいな。狭い日本そんなに急いでどこに行く？」というんですが、「飛行機が間に合わない、早く行かなきゃ」とタクシー乗っている時は前の車邪魔ですね。「何をとりとる走ってるんだ」「前の車遅いね」と何かというと自己中なのです。自己中なのにこういうことに気が

つかなければ「皆バカ」ということになってしまふ。「バカ」といつている自分こそ一番問題があるのじゃないのか。こういうことはどうしても省みなきやいけないわけですが、そういうことを知らせて頂くのは何もないところでは知ることには出来ません。沢山の生き合ひの中で気づかせて頂くんです。だから本当に感話の中でありましたが気づかせて頂く、気づきの場所というのが職場であればこれほど素晴らしいことはないです。私共本当に順風満帆で生きたら何ものにもならなかったでしょう。楽ばかりだったら階段一つ上がるのも歩けないじゃないですか。つらい、きつい、そういうことがあつて階段を上がる訳です。いたいのは心の問題です。何でも思い通りになったという人は未熟な人です。つらい思いが多くてそういう中で自分自身が省みさせてもらつて、そして一旦傷ついても立ち直るような、そういう柔軟性というのを得て行くということがなくてはならないのです。そういうことの手掛かりになるのが手を合わせてお参りをするということが力になるじゃないでしょうか。そういう場所が現代人は少な過ぎる訳なのです。ですからこのようにしてこのお寺を整え或いはお墓を整えお参りをして行くんだ。亡くなった人はものはいわない。いわないはずなんです。が亡くなった人に向き合えば今の自分はどうなのかということが本当に問われる。そういう精神生活はどうしても必要なのです。ですから今これから、ますますこのように今の證大寺さんの在り方というのがますます重要になると思う訳です。つまりは人生の節目節目そういうところには合掌礼拝あり、そういう姿勢です。本当のところは。「ああ嫌だ嫌だ」ばかりいつていたら若者は

誰も習いませんよ。年取った人が、年取って「ああ嫌だ、ああ嫌だ」「早く死にたい、早く死にたい」そういうことだったら若者も行き先は暗いですよ。若者の人生の将来が暗いです。そうでないでしょう、やはり、年取って気がつくことがあるじゃないですか。それこそ物ごとに気がつくことがあるのですよ。つい最近見た本ですけれども鈴木大拙氏は、九十五でなくなる二日前に年の若い人に対して「いいか！年取らないとわからないことあるのだぞ！」九十五になって気が付くことがあったと。そういう点では私達発展途上なのです。年取ってもう駄目だということはないのです。更に死んでもう駄目だということはないのです。それこそ私どもの人生というのは見えた範囲だけのことではないのです。そういうことまで含めて人生の意義というのを考えなければいけないのです。そういうことを思う訳です。時間が超過致しましたので申し訳ございません。ここまでとさせて頂いてご質問やご感想をなんなりとおっしゃって頂ければありがたいことです。



質  
疑  
応  
答

## 質疑応答

〔質疑一〕和合衆の願いということでお聞きしたいのですが、自分の身の丈を知り理解し合うことが大切でありますけれども実際の仕事を行うにあたって自分の正義と他人の正義がぶつかり合うことがあります。和合衆ということは非常に大切であります、あまりそれが甘くなりすぎると蔓延して職場に取って悪い方向に進むのではないかということ 생각합니다。お互いに仲良くなれないような中でどのような理解のし合いをしていけばよいのか。和合衆の詳しいところを質問させていただきます。

### 質疑一を受けての応答

ありがとうございます。和合衆についてということなのですが、最初に説明を受けたところで「三宝」ということを申し上げたことです。仏法僧の三宝。それで和合衆というのはサンガのことです。あまり詳しく申し上げなかったかなと思うのですが、おっしゃる通りです。「みんな仲良くします」といっても仲良く出来ないです。「みんな仲良くするから問題を指摘し合うのは辞めましょう」といったら馴れ合いになってしまう、大変になってしまおうと思うのです。私も居眠りしてるから相手も居眠りしてるのを黙っておきましようとかです。あの人遅刻したけど私も遅刻することもあり

得るから黙っておきましょうとかです。そうするとだらしなくなってしまうって仕事が進まなくなり  
ますよね。そういう点でおっしゃる通り仲良く致しますというのは馴れ合いになってしまいうという  
質問やご感想が出るというのはそうだなと思います。実はそれは仏法抜きで仲良く致しますという  
話だったらそうなるでしょう。仏法僧の三宝の僧というのはサンガで、サンガの意味は和合衆でそ  
の点で和合衆ということを申したんですけれども、あくまで仏法の下に和合するということしか和  
合というのは成り立たないということが一つございまして、随って仏法ということが視点に入りま  
してのご質問なのかということをお伺い頂いたらと思うのです。そうすると仏様の下をかけて生き  
ていきますか。仏様の教えを常々我が身に当てる考えていきますか。そういうこと抜きにしていくと仏  
法抜きなのです。それで仲良くしますといっても、それは利害が一致する時は仲良くするでしょう  
が危なくなれば喧嘩でしょうね。人間関係を成り立たせる原理は何なのか。そういう時に真の道理  
ということに基づかないと、エゴイズムを抱えた者同士の共同体は結局社会的ない方だと、砂  
のような群衆といういい方ありますね。現代社会は人は集まっているけど砂のような集まりで、ご  
飯粒一つでも握るとおにぎりになります。砂をどれほど握っても、湿っている間はかるうじてく  
つついているかもしれませんが、乾いたらサラサラになってしまいますね。何故かという自分の  
エゴイズムを持って自分の勝手気ままに過ごしているものが和合衆だサンガだなんてあり得ない  
ということです。真の道理ということに基づいて共同して行くということでは成り立ちません。そ

うすると馴れ合いというのはお互いの保身のためのエゴイズムですから本当のサンガにならない都合にならないのではないのでしょうか。また道理というのはただ道理では良くわからないです。そうすると身を持って示してくれた人が大事になるわけで、それは具体的には積尊です。或いは親鸞聖人だったりするとそういうようなことで親鸞聖人の生き方、親鸞聖人の言葉そういうのを手掛かりにしてそれで語り合う、そういうところには相手を言い負かせてやろうとばかりでなくまたいい負けないようにしようとするばかりでなく親鸞聖人の言葉を媒介にして仲人にしてお話し合いが出来る、普段の話し合いとは変わってくるのではないのでしょうか。ですから和合衆ということが話題になる時は仏と本願が話題になるわけじゃないかと思えます。由来からいうと日本の場合は聖徳太子の『十七条憲法』です。その一番が「和らかなるをもって貴し」(『十七条憲法』第一条 聖典九六三頁) 平和ということ。和やか、和の字です。それが尊い。これが第一条ですがどうしたらそれが実現出来るのですか。といった時に出て来るのが「篤く三宝を敬え」(『十七条憲法』第二条 聖典九六三頁)と出て来るのです。「みんな仲良くします」といっても出来ないでそれに基づく道理というのがないといけません。その観点からまたお考え頂ければよろしいかと思えます。ですから朝お集まりになってお朝事をなさるといことは教えに触れる。それはただ読み上げるだけでなく意味が気になって尋ねるとか味わうとか。そういうことが普段の人間関係とこの職場の利害関係は違う面といったらそういうことです。そういうことでお考え頂ければ考え方の手がかりとし

てご提供申し上げたいと思う訳です。

ここには六十数人が集まっています。地縁、血縁を超えて本当の人間同士が安心して歩める場所。そういうのを実現して行きましょう。これ素晴らしいことですね。普通は人間関係は地縁・血縁です。あとは利害なんです。しかしそうでなくて地縁・血縁を超えて人間関係が出来て行くことなのです。これは素晴しく是非ともしなきゃいけないことなのです。だからその時には手を合わせてお参りするところが形も出てくるじゃないでしょうか。手を合わせるといことはケンカできないということです。敬うということですよ。たとえば家の中でも家族で何故歪み合うか。大体は愛はあるけど仏法がないからです。だから歪み合うじゃないですかね。また、たとえ仏法を知っていたとしても仏教用語をつかって相手呼び込めようとする。間違った聞き方の人いるんですよ。「いい話聞いた。この話持って帰ってお父ちゃんにいうてやらなきゃ」相手をやり込める武器です。そういうのでなくやはり自分自身が問われるというところが大事なことだと思います。自分にいいこともありますよ。自分は自分でいい者だと認めたいですよ。私もそうですけれども。やはりまずいいところも随分あるのです。こんな自分に関わってくれているんだという時に「ありがとう」という言葉が出て来るかどうかです。自ら省みるということが落ち込みも堅にもなるでしょう。しかしながら感謝の出処にもなるということなのです。それでたとえば夫婦の和合はどうしたら出来ますか。普通は健康で愛情を持って時に夫婦のふれあいとかそういうのを話題にしますが実は大事なものは心のふれあい

でありまして一対一の人同士、もとは赤の他人がどうやって心開いて語り合えるか。「そんなこといって私心開いたんだからあなたも心開きなさいよ」なんていっても無理なのです。そういう時に仲人になるのは仏様に手を合わせる。そういうことになるのではないですかね。和合衆は広くいうと世界の問題になるし身近にいうと家族の問題、兄弟、夫婦のことになるのではないかと思います。馴れ合い夫婦はありますよね。結婚したら片目閉じるくらいの方がいいという話があつて、結婚前は両目を開けて、結婚した後は片目閉じる。多めに見るといふのもいいこともありますよ。たとえば安心出来る付き合いが必要なのです。いかに正直であつてもお互いに正直故にぶつかり合つて傷つけるのでは困つたものです。そこに真の智慧というのとそれから愛の裏付けが必要ではないですかね。この愛を慈悲と申します。それで智慧と慈悲。これが両方上手くバランスがとれてそして方法手だて・方便、それを用いて調和して行くと。そういう事が願いですから、まずそれを願ひとして生きていくかどうかということではないでしょうか。簡単な話ではないのです。こうすれば出来るのか、ちよちよと振りかけたらすぐ解決するとかそんな訳にはいかない。なにしろ私も一人ひとりが難しいです。そういうこと考え合つて生きているということですから。そういうところからいっていかなければならないではないでしょうか。

〈質疑二〉 相手が傷つくのは解っているが、いわずに我慢すると自分の気持ちが晴れない。そんな時は自分の気持ちをどうコントロールすればいいのか。

### 質疑二を受けての応答

ありがとうございます。難しいです。皆さんの歎きのところだと思えます。難しさを抱えながらお互い行くしかないですよ。こないだ證大寺が出している「浄縁」の冊子に宮戸先生の法話が載っていたじゃないですかね。「世話してやったのに、ちっともお礼がない。世話しなきゃよかった。この気持ちどうしてしまう」本当にこういうものなんだな。自分自身が抑えようとしても無理です。抑えられないと思います。その点いい教えの言葉がありますよ。「当流の安心のおもむきは、あなたがちに、わがこころのわるきをも、また、妄念妄執のこころのおこるをも、とどめよというにもあらず」

〔御文〕一帖三通 聖典七六二頁）それほどまるごと手を合わせてお参りしなさい。そういうところからしか始まらない。自分の心のやりくりで出来ません。また今度やりくりして「あなたに怒りの気持ちを私がどれほど我慢してるか。わからないでしょ！」また頭に来るじゃないですかね。心のやりくりでそう簡単には行きません。それほどの欲望、煩惱、エゴイズムの塊であることです。まずそれに気が付くことです。事実を受け止めるということからでないと始まらないじゃないですかね。その受け止めが甘いのが私共です。「はい煩惱具足の凡夫ですから」「どうしても思い通りに

いかないものですから。はい、はい、はい」といって言葉だけ知っている。実感になってない。実感になったらもうちょっと静かになったり口慎んだり、おのづから出て来ることがあると思います。口をへの字にして「我慢してる」では、我慢になってない。むき出し。人は言葉だけではありません。目つきとか態度とか気が出ております。これ大人同士でのわだかまりですからどうすればいいか。聞かれても困りますね。「俺の心どうにでもならないもん」と答えるしかありませんよ。やっばりい合うしかなんじゃないですか。そういうのは眠気の話です。「寝てはいけない」といって眠くなる。「休憩」といったら目が覚める。そういうところから私の心どうしますか。そう簡単にいかなじやないですかね。眠気の問題から解決して下さい。

〈質疑三〉 阿弥陀様というのは無量無限の光、無量無限の命という先生の話を聞いたんですけれども、その中で特に阿弥陀様というのはどういうことなのか。そしてまた智慧であり慈悲である。ということはどういうことであるのか。もう少し詳しくお願い致します。

### 質疑三を受けての応答

どうもありがとうございます。本当は班ごとでゆつくりとお話し合いになれば、自ずからこういうことはねと話題になると思うんですけど、話し合いの時間も長い訳ではないので、それで質問として聞こうとなったのではないかと思います。アミダーというのはインド語だと。ナムーというのもインド語で頭が下がります。ナムーなのです。アミダーというのは無量無限という意味なんです。それから仏というのはブツダ。目が覚める。目が覚めた。目覚めた人。目覚めのはたらき。そういうのです。それで無量無限というのはアミダー。何が無量無限ですか。といった時に「帰命無量寿如来」です。寿というのは喜寿とか米寿とかいいますよね。それで命です。それから「南無不可思議光」、不可思議光。思議というのは人間が思っ、はからって、サイズがわかるのは思議。サイズがわからないのは不可思議。わからない。こういうのが不可思議。何でわからないかというのを数えきれないから。はかることが出来ないから。だから不可思議の光。これはつまり無量光。と同じことなのです。だから命の方も無量寿というのでなくして不可思議寿です。不可思議の命なんです。

命はつくれませんかね。気合い入れても命は出て来ないです。つくる、合成できないです。今のところ。これから出来るんですかね。凍結した受精が。凍結した卵子に精子をかけて受精卵が出来ました。そこで試験管から今度はお腹に入れて子宮に入れて妊娠状態になって赤ちゃんが生まれるようになりました。そういうことが出来たとしても卵子と精子とが受精していわゆる命になるというところしかつくれませんよ。タンパク質合成して幾らでも命つくれるはずなんですけど、命自体、不可思議です。ですから無量というのは不可思議というのと同様の概念だとお考え頂ければと思います。命とはこんなものだといってもわかりません。ものにも命があるといういい方がありません。大事にする人には役に立つと。粗末にする人には役に立たない。普通は役に立たないから粗末にするんですよ。人間の考え方は役に立つから大事にする。大事にする人にとっては役に立つ。そういう逆の面もあるのです。これは命の話につながります。ものにも命があるよ。人には命があるよ。證大寺での扱いは大事にされるよ。人を粗末にすれば粗末に扱われるよ。本当にその通りです。そういうので限りなき命と不可思議な命というのは私共にとっては何をあらわしているかという、先ずは私共の命の意味があるということです。そういうことを気づかせるといふことあるじゃないですかね。それから光の内容は智慧なのです。私共の智慧は悪知恵、浅知恵、真つ暗闇。どれほどあれこれ考えても出処がエゴイズムだから、そういうのを相対有限といます。相対有限を知らせる絶対無限。相対有限のものが自分を絶対無限と思っていると大間違い。私共の大間違いは

「いつも」なんていうんです。「いつも遅刻するね」残念でした。遅刻する時は遅刻するけど、遅刻しない時は遅刻しないんです。「いつも威張ってる」残念でした。威張る時は威張るんですけども、いつも威張ってない時もあるのですよ。「ケチ」「いつもケチだから」。「いつも」実は違うんです。毎日毎日違うんですから。諸行無常といって道理ですから。いつもというのは成り立たない。それなのにいつもと決めつけることが邪見。間違った考え方です。相対有限なのに絶対無限と思いつ込んで。そういう間違いを気づかせて頂く。その気づきは人類普遍の原理ということになるでしょう。だから「私馬鹿よね」の歌は流行ります。「本当にそうだな」と思う人に共感を呼ぶんですよ。「私賢いわ」という歌は流行らないと思います。「私馬鹿よね」本当だな。そういうところに共感とか連帯とか成り立つじゃないですか。相対有限という事。智慧は限りがあるし命にも限りがあるしどれほど愛しい人も別れなければいけない。無量寿じゃないから。わかったといってもわからない。わかった、わかったという人に限ってわかってない。そういう人に限ってわかったふりする。そういうことを知らせて頂くというのが限らない智慧。そうやって頂けばいいじゃないでしょうか。そうすると無量寿・無量光と思いつかぶだけでも自分自身の有様というのについて「いい過ぎだったな」とか。「思い込みがきつかったな」とか。そのように「自分を立てて相手を貶めようとしているものがどうしても自分にあるものだな」とか気づかせてもらうんです。だからといって捨てられるかという捨てないですよ。つまりどれだけ悪いこと考えても急に心臓止まったりしないです。良かる

うと悪かろうと生かそうとして下さるはたらきがあるのです。限りなき命のはたらきのお蔭です。それから自分の命の歴史を遡ればご先祖様からずっとご先祖の名前もわからない程の歴史があります。命の歴史。そういうのに念おもいを至せば、「ありがとうございました」くらいならいいでしょうかね。そういうのです。自分を絶対化する。これが間違いだ。というのは私の中から気が付かないので、お教え下さって「ありがとう」になってくるのです。それで無量寿・無量光というのをアミダーという共通語な訳です。インド語、古いインド語だったら知っている言葉です。そういうのを称えますということ。もう一ついいことあるのです。ナマンダブ、ナマンダブになりますから歯が抜けても出来るということになります。歯があってもなくても出来るというのは年齢制限なし。気づかせて下さる。

〔質疑四〕 遇縁という話を頂いたんですけれども良い縁は喜んで領けるんですが悪い縁は中々領けないことがあります。例えば殺人事件であったり、生まれながらにして障害をもって生まれる方も縁によるものだと思えば理解できるのですが、そういった事件ですとか障害をもって生まれるということはどう受け止めればよろしいでしょうか。

#### 質疑四を受けての応答

殺人とか障害とか当事者としていうのと脇から見ていうのと全然違う訳なのです。ですから、何でもかんでも縁だからといって、それが逆に当事者にとって恐ろしい傷つけになったりする訳です。当事者であるか当事者でないかで個別の問題は考えなきゃいけない訳です。そして自分が障害があつた場合というのでしたらそれはそれで縁の問題というのを考えなきゃいけない訳ですが、恐らくは障害を持った人をどう考えるのかという話であれば他人事です。他人事ということでは中々説明できないこともありますね。縁というのはあらゆる条件が整って、あらゆるものがこの世に存在する。そういう道理のことですから、道理を受け入れられないということとは考えが浅いか私は永久不滅と考えているか。私自身については縁起的存在というんです。良い縁、悪い縁は誰が決めるかという、それは自分感情、物差しが決められているのではないですか。良い縁だったら受け止める、悪い縁だったら受け止めきれない。受け止めようと受け止めまいと縁は縁として厳然たる事実なの

です。そういう意義内容があるというのが縁という言葉なので、これは中々難しいです。縁起の道理を悟った人は誰ですか。ブツダなのです。仏様になる。縁起ということを問題に考えながら生きていくというのが私共。そういうことで受け入れられないなと思いつながら縁の中を生きていかなければならないと。そういうものです私共は。只傲慢だったらすべての縁は受け入れられないじゃないですかね。色んな縁について・・傲慢というの難しいかもしれませんが報恩という言葉が恵みに報いること。恵みを受けているという感ずる感覚がないと、恵みについてのお返しは出来ません。傲慢な人は「ありがとう」といわないでしょ。「当たり前」というでしょ。「ありがとうございまして」という具合になるのは謙虚さがどこから出て来るか。そうすると、この自分自身の成長についてきちんと顧みるところから様々な条件が整って自分がいるんだな。これについて自分の物差しで受け入れられる、受け入れられないというのは自分の物差しになっている。そういうので必ずしも正しいことでない。まずはそういうことになるうと思う訳です。縁という言葉はつかわれますけど、日本人は特に仏教の考え方を習ったんでしょね。仏教徒でない人もいうんです。キリスト教の方もいうんです。「縁があつたらまた遇おう」普通キリスト教の方は「神の意志があれば遇おう」ということになるはずなんです。縁というのを何でもかんでも受け入れられなきやいけないのか。そういうことでもないです。受入れられないのです。何でこんな人と親子にならなければならぬのか。問題の塊です。しかしながらすべてのものは網の目のようになって存在しているんだ。永久

不滅の固定的実体はありません。そういうものの見方、感じ方、方法としてそういうこともあるというだけでまず見て頂ければいいじゃないでしょうか。我がはからいということがないということに縁ということが話題になるんです。今出た問題は大変大事でしょうから、関心を持ちながら訪ねて行かざるをえないじゃないでしょうか。多分これからの下の若者に「縁とは何？」と聞かれますよ。そういう時に人生観が出て来るかと思えます。大事なご質問ありがとうございます。

〔質疑五〕 人間生まれて来た事には意味があるといつてましてその意味とは何か。死ぬということも必ず受入れなきゃいけないというが死が怖いというのはエゴと思うが、受け入れるというのはどうということなのか疑問に感じました。

### 質疑五を受けての応答

ありがとうございます。これは、生まれるということ死ぬこと、よく考えなきゃいけないということでございまして、受け止めなきゃいけないといつても受け止められませんか、私共一人ひとりよく考えなきゃいけない。それがまず一番最初のことかと思えます。人の答えを持ってきて自分を当てはめようとしても当てはまりません。只現代人は生まれたら誕生日おめでと、お葬式は悲しいでね、分け隔てしてます。サンケイプラザでも話はしたんですけれども、生のみが我らにあつて死は我らに非ず。です。生きていることだけが自分じゃないです。生まれたということは死ぬということとは避けられないです。それなのに生まれて「おめでと」ばかりいつてです、死ぬものが生まれたということなんです。それなのに死ぬということを穢れと受け止めて塩で清める。しかしながらどうしても事実として生まれたものは死ななきゃいけない。何故死んだか。生まれて来たから。他人の葬式に行ったら自分も死ぬんだということが、どうしても気づかざるをえない。「あー私でなくて良かった」という気持ちもあるけど、自分も死ななきゃいけない。しかし、いつかは

死ぬじゃない。いつ死ぬかはわからない。そうすると感話の中にもありましたが自分が死ぬ時、自分の人生をどう受け止められるだろうか。ということは今元気で生きている時に考えて悔いのない生き方をしなきゃいけないとなった。これは素晴らしいことです。そういうことが生と死についてきちんと考える手掛かりになるじゃないでしょうか。生きている時は死んでない。死んだ時は生きてない。だから死んだ時のことを考えなくてもいいからね。そういう人もいますよ。しかしながら私共は死なないから死ぬということを考えるものなんです。人間は創造力があるから「ポチどうした？暗い顔して」「明日の食べ物どうしていいか、わからないから困ってる。ワン」なんてないです。人間だけです。やはり死ぬということとその事実から自分が問われているんだと。そういう具合に感ずる人はそのような生き方を誠実に考えることになるでしょ。今死んでないから生きてる間の事一生懸命考えればいいや。というのはやはり疎かです。そういうことでございまして幾つも類書はありますが私最近改めて読んだのは「死をどう生きたか」聖路加病院の日野原先生の体験談です。だから日野原さんは死んだ訳じゃないですよ。六百人もの人を看取って来た。それで忘れられない臨床の記録、思い出を綴られた本です。證大寺のご縁は大きいですが、たとえ證大寺にご縁がない人でも人間として呼んだ方がいいじゃないですかね。十六歳の若い女性が昭和五年頃、結核になって弱って死んでいくんですよね。その時に「日野原先生、私、午後まで持てない。お母さん、午後に来るといったけど遇えないと思う。私、成仏したいわ。お母さんに、今まで苦勞かけてごめ

んねと言ったと先生から伝えて下さい」と十六歳の患者がいったと。自分が死ぬというのを。その時に日野原さんは若かったので「死ぬなんて考えるな。頑張れ、頑張れ。お母さんに私が伝えるというよりもあなた自身がいった方がいいから頑張れ、頑張れ」としかいえなかった。どうしてその時に「そうだね。仏様になるんだね」と声かけなかったかと。「安心していいよ。あなたの最後の言葉をお母さんに伝えるからね」とどうして私はいえなかっただろうと、それが一番最初の臨床なことです。そこからが一生の課題になったそうですよ。今も長生きなさって回診してますよね。そういうのでございまして。『死をどう生きたか』これは中公新書から出ております。そういうことで死を見つめるというような本がいっぱいありますから。嫌がるよりも先に読んだ方がいいと思います。本当に美貌も体力もね、あつという間に散ってしまうんだよ。美貌も体力も「散ってしまうのは嫌だー！」というよりも、そういうことを承知していった方がいいじゃないですか。そうすると美しさというのは心の美しさが大事なんだと。物の見方、感じ方の方が大事なんだと。健康というのも身体が健康というのでなくて心の持ち方から、源からの元気です。そういうのが出て来るのが大事なんだと。それには手前勝手な都合ばかりでは役立たないことです。道理に基づかなきゃという具合になっていくのが大人ということじゃないですか。おかしい方がいいかな。未熟なことですがそういうことを考えて行きましようということになると思います。どうもありがとうございます。

## 大坊守挨拶 井上 正子

南無阿弥陀仏

本日は職員報恩講のお勤め有難うございました。  
また三明先生にはご教導を賜りまして深く感謝を申し上げます。

報恩講を迎えるに当たって其々が自分と向き合う時間を持たれたことと思います。

私の現時点の受け止めを話したいと思います。

私達の職場は仏法から生きて行く道、歩んで行く方向を教えて頂いています。

たった一度の大切な人生の主人公になっていますか！

自分の人生は主体的になっていますか！

空しく過ぎることの無い生き方をしていますか！

幾度となく聞いた言葉「目覚よ」。

常に変化し続けるこの社会、この道理にも拘わらず自分の思いにとらわれ過ぎていく私がいます。人間として尊い命を頂きながら何時まで自分の思い通りの生き方をするつもりなのでしょう？

何時まで自分を頼りに流転して行くつもりでしょう？と問われ続けています。

人間が人間となっていく真実の教えを仏法に聴いて参ります。私は私自身を生きる為に生まれて来た事を仏法を通して気付きました。私にとって毎朝のお朝事は自分と向き合う大切な時間、阿弥陀様の前で自分の心を整え内省することから一日が始まります。

教えから離れた途端自分都合優先の生き方をするあやうい私がいいます。毎朝の確認です。

お朝事のあと曾我量深先生の実語抄を輪読していましたが先週で読み終えました。最後の頁が重く響いてきました。

「自分が自分の先覚者を長い間苦しめた罪を内省することが、教化である。自分の暗い道程を新しく見直す事である。之が還相回向である。」

自分の昔の生活に立ち帰る。昔の生活を見直す事である。真実の教化は信仰の無い者を目覚ます為に自己を捨てて働く事である。」

何の計らいも必要としない目覚めそのものの教え有り難く受け止めました。

お朝事で再度輪読し始めた『歎異抄講義』は三明智彰先生著作です。心して深く領けるように聴いて参ります。

教えと共にある職場、證大寺で「往生は一人一人のしのぎなり」の自覚をもって目覚め歩んで参ります。證大寺で働けることの有り難さ感謝と報恩の心が溢れて参ります。本日は職員報恩講有難うございました。

南無阿弥陀仏

## 住職挨拶 井上城治 證大寺住職

皆さんこんにちは。三明先生本日はご指導いただき有難うございます。そして坊守、素晴らしいご挨拶をいただき有難うございます。私は證大寺という弥陀の本願の教えを聴聞する場がなければ、三明先生にもお遇いできておらず、坊守にもお遇いしていません。母親と息子としての関係はあれども、ともに聞法して生まれた意味や意義を確かめる機会は得られないに違いはないと思います。そのような意味では、本日の報恩講を開催して本当によかったと感じています。私たちが勤める證大寺がどのような願いをもつ場所なのかということを確認する上で、先代住職と首都圏開教を荷なわれた当事者である坊守から、本日のようなお話を聴かせていただける以上のことはないと感じます。有難うございます。

證大寺に仏縁があつて集つた私たちが、「證大寺三つの願い」という理念にもとづき、仕事を通して人生を省みる大切な意味があることを改めて教えていただくことができました。これからも「證大寺三つの願い」の魂である「生涯聞法」の旗印のもと、人生を大切に、自分の仕事の場所を大切にしていきたいと思います。今日は有難うございました。

南無阿弥陀仏 南無阿弥陀仏  
恩徳讃斉唱

如来大扉の恩徳は

身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も

骨をくだきても謝すべし



法  
話  
資  
料

二〇一六年二月三日 證大寺職員報恩講

## 和合衆の願い

三明 智彰

### 【報恩講】

報恩講は、親鸞聖人の御命日を縁として、如来大悲と一切の恵みに、感謝・報恩の思いを新たに  
する集いです。

此の一七か日報恩講中において、他力本願のことわりをねんごろにききひらきて、専修一向の  
念仏行者にならんには、まことに、今月聖人の御正日の素意に相叶うべし。これしか  
しながら、真実真実、報恩謝徳の御仏事となりぬべきものなり。あなかしこ、あなかしこ（御  
俗姓御文」聖典八五二）

### 【弟子一人も持たず】

専修念仏のともがらの、わが弟子ひとりの弟子、という相論のそうろうらんこと、もつてのほかの  
子細なり。親鸞は弟子一人も持たずそうろう。そのゆえは、わがはからいにて、ひとに念仏をもう

させそうらわばこそ、弟子にてもそうらわめ。ひとえに弥陀の御もよおしにあずかつて、念仏もうしそうろうひとを、わが弟子ともうすこと、きわめたる荒涼のことなり。つくべき縁あればともない、はなるべき縁あれば、はなることのあるをも、師をそむきて、ひとにつれて念仏すれば、往生すべからざるものなりなんじうこと、不可説なり。如来よりたまわりたる信心を、わがものがおに、とりかえさんともうすにや。かえすがえすもあるべからざることなり。自然のことわりにあいかなわば、仏恩をもしり、また師の恩をもしるべきなりと云々（『歎異抄』第六条・聖典六二八〜九）

### 【たまわりたる信心】

自他の是非をさだむべきにて、この子細をもうしあげければ、法然聖人のおおせには、「源空が信心も、如来よりたまわりたる信心なり。善信房の信心も如来よりたまわせたまいたる信心なり。されば、ただひとつなり。別の信心にておわしまさんひとは、源空がまいらんずる浄土へは、よもまいらせたまいそうらわじ」と（『歎異抄』後序・聖典六三九）

この文は奥郡におわします同朋の御なかに、おなじくみな御覧そうろうべし。あなかしこ、あなかしこ。としごろ念仏して往生をねがうしには、もとあしかりわがころをもおもいかえして、ともの同朋にもねんごろのころのおわしましあわばこそ、世をいとうしにてもそうらわ

めとこそ、おぼえそうらえ。よくよく御ころえそうろうべし。(「広本御消息」二・聖典五六三)

### 【四海兄弟】

「莊嚴眷属功德成就」は、「偈」に「如来浄華衆 正覚華化生」のゆえにと言えり。これいかんぞ不思議なるや。おおよそこの雑生の世界には、もしは胎、もしは卵、もしは湿、もしは化、眷属若干なり、苦楽万品なり、雑業をもつてのゆえに。かの安楽国土は、これ阿弥陀如来正覚浄華の化生するところにあらざることなし。同一に念仏して別の道なきがゆえに。遠く通ずるに、それ四海の内みな兄弟とするなり。眷属無量なり。いづくんぞ思議すべきや。(『教行信証』「証卷」『論註』・聖典二八二)

### 【御同朋御同行】

ある人いわく、当流のこころは、門徒をばかならずわが弟子とこころえおくべく候うやらん、如来・聖人の御弟子ともうすべく候うやらん、その分別を存知せず候う。また、在々所々に小門徒をもちて候うをも、このあいだは手次の坊主には、あいかくしおき候うように、心中をもちて候う。これもしかるべくもなきよし、人のもうされ候うあいだ、おなじくこれも不審千万に候う。御ねんごろにうけたまわりたく候う。

答えていわく、この不審もつとも肝要とこそ存じ候え。かたのごとく耳にとどめおき候う分、もうしのぶべし。きこしめされ候え。故聖人のおおせには、「親鸞は弟子一人ももたず」とこそ、おおせられ候いつれ。「そのゆえは、如来の教法を、十方衆生にとききかしむるときは、ただ如来の御代官をもうしつるばかりなり。さらに親鸞めずらしき法をもひろめず、如来の教法をわれも信じ、ひともおしえきかしむるばかりなり。そのほかは、なにをおしえて弟子といわんぞ」とおおせられつるなり。されば、とも同行なるべきものなり。これによりて、聖人は御同朋・御同行とこそかしずきておおせられけり。されば、ちかごろは大坊主分のひとも、われは一流の安心の次第をもしらず、たまたま弟子のなかに、信心の沙汰する在所へゆきて、聴聞し候うひとをば、ことのほか説諫をくわえ候いて、あるいはなかがいなんどせられ候うあいだ、坊主もししかと信心の一理をも聴聞せず、また弟子をばかようにあいささえ候うあいだ、われも信心決定せず、弟子も信心決定せずして、一生はむなしくすぎゆくように候うこと、まことに自損損他のとが、のがれがたく候う。あさまし、あさまし。：（以下略）：（蓮如『御文』一一・聖典七六〇〜七六一）

一 信をえたらば、同行に、あらく物を申すまじきなり。心、和らぐべきなり。触光柔軟の願あり。また、信なければ、我になりて、詞もあらく、諍いも必ず出来するなり。あさまし、あさまし。能く能く、こころうべしと云々（293）

一 前々住上人、北国に、さる御門徒の事を仰せられ候う。「何として、久しく上洛なきぞ」と、仰

せられ候う。御前の人、申され候う。「さる御方の、御折檻候う」と、申され候う。その時、御機嫌、もつてのほか悪しく候いて、仰せられ候う。「開山聖人の御門徒を、さようにいう者は、あるべからず。御身一人、聊爾には思し召さぬものを、なにとたるものがいうべきぞ」と、「とくとくのぼれ」と、いえ」と、仰せられ候うと云々(294)

一 前々住上人、仰せられ候う。「御門徒衆を、あしく申す事、ゆめゆめ、あるまじきなり。開山は、御同行・御同朋と、御かしずき候うに、聊爾に存ずるは、くせごと」の由、仰せられ候う。(295)

一 「開山聖人の、一大事の御客人と申すは、御門徒衆のことなり」と、仰せられしと云々(296)

一 御門徒衆、上洛候えば、前々住上人、仰せられ候う。寒天には、御酒等のかんをよくさせて、「路次のさむさをも忘れ候う様に」と、仰せられ候う。また、炎天の時は、「酒などひやせ」と、仰せられ候う。御詞を和らげられ候う。また、「御門徒の上洛候うを、遅く申し入れ候う事、くせごと」と、仰せられ候う。「御門徒衆をまたせ、おそく対面すること、くせごと」の由、仰せられ候うと云々(297)

一 万事に付けて、よき事を思い付けけるは、御恩なり。悪事だに思い付きたるは、御恩なり。捨つるも取るも、何れも、何れも、御恩なりと云々(298)

一 前々住上人は、御門徒の進上の物をば、御衣の下にて、御おがみ候う。また、仏物と思し召し候えば、御自身のめし物までも、御足にあたり候えば、御いただき候う。「御門徒の進上の物、すな

わち、聖人よりの御あたえと、思し召し候う」と、仰せられ候いしと云々（299）

一 仏法には、万事、かなしきにも、かなわぬにつけても、何事に付けても、後生のたすかるべきことを思えよ。よろこびたきは、仏恩なりと云々（300）  
（聖典九一〇〜九一二）

### 【報恩講の和讃】

他力の信心うるひとを　うやまいおおきによるこべば

すなわちわが親友ぞと　教主世尊はほめたまう（「正像末和讃」第五十七首・聖典五〇五）

如来大悲の恩徳は　身を粉にしても報ずべし

師主知識の恩徳も　ほねをくだきても謝すべし（同五十八首・親鸞聖人恩徳讃・聖典五〇五）



お  
わ  
り  
に

## 後記

本冊子は、二〇一六年（平成二十八年）二月三日、證大寺本坊にて開催された「證大寺中興四〇〇年記念職員報恩講」の記録である。

当日は證大寺本坊、森林公園支坊、船橋支坊、管理事務所から職員パートナー六十四名が集い、八班に分かれて感話、法話をおこなった。最後に班ごとに「職員総括」として座談をおこない、各班から代表して出された質疑に対し、時間の許すかぎり、講師の三明智彰先生から懇ろなご法話をいただいた。

### 證大寺では

「人生を主体的に生きる者の誕生」を願いとし、仕事の意義や使命を自分の言葉で語ることを大切にしている。その実践として、毎朝の勤行の後に職員による感話を行い、また毎月の「全体朝礼」や各現場での「ミーティング」にて、二人一組となり与えられたテーマの元、感話をする「職業観トレーニング」をおこなってきた。このたびの職員報恩講に先立ち、報恩講の感話テーマである「私のたった一度の大切な人生を、證大寺で働く意味」が事前に伝えられ、パートナーによる感話が繰り返し行われた。各拠点のパートナーにより、我々の願いを最も表現していると思われる代表がそ

れぞれ選ばれた。当日は、皆の期待を受けて、十五名の代表が素晴らしい感話をしてくれた。

最後に、三明智彰先生には懇ろなご法話をしていただけ、我らパートナー一同、お寺に勤めることの意義を確かめることができた。兼ねてより自分のための報恩講を勤めることの大切さを教えていただき、このたびの「職員報恩講」が開かれた。また事前の打ち合わせのできない当日の感話や質疑に対しても、懇ろな法話で応えていただき、文字通り一期一会の稀な法座が開かれた。重ねて講師の三明智彰先生に御礼申し上げたい。

これからも證大寺の理念である「生涯聞法」を通して、日々の業務や人生が在家仏教の修行実践の現場であることを確かめ、人生完成に向けた歩みを進めていきたい。

二〇一七年十月 證大寺住職 井上城治

證大寺中興四〇〇年記念

平成二十八年度證大寺職員報恩講

— 和合衆の願い —

法話 三明 智彰 師

二〇一七年十月一九日 発行

編集・発行 (※文責はすべて證大寺にあります)

宗教法人 證大寺

〒一三四—〇〇〇三

東京都江戸川区春江町四—二三—一

電話 〇三—三六五三—四四九九

印刷所

ニッセイエプロ株式会社

〒一〇五—〇〇〇四

東京都港区新橋五—二〇—四